

建築学部

建築学科 Department of Architecture
School of Architecture

建築学研究科

建築学専攻 Architecture Major
Graduate School of Architecture

2020年4月
建築学部
誕生

感動を生む建築家を育てる
UNESCO-UIA建築教育憲章を満足する
6年一貫教育として認定されています!



建築学部

学習教育
到達目標

学習環境

カリキュラム

学生生活

学部1年

学部2年

学部3年

学部4年

大学院

修士1・2年

インターシブ

海外実習
フィールドワーク

教員紹介
丸尾花穂先生



武庫川女子大学

2021

建築学科

大学院 建築学専攻

グローバル社会で
発揮できる国際通用力と
独創力を備えた
建築設計技術者を
育成します。

建築学科の教育は、建築系学士修士課程6年間のJABEE認定により、建築家教育の世界水準であるUNESCO-UIA建築教育憲章*に対応しています。この6年一貫の欧米型建築家教育を通し、真に人間的な住環境を創生する教養、知識、技術、感性を修得。さらに国際通用性も備え、グローバル社会に貢献できる建築設計技術者を目指します。

*国際社会における建築教育と資格の相互承認を目的に、UNESCO(国際連合教育科学文化機関)とUIA(国際建築家連合)により採択されたUNESCO-UIA建築教育憲章では、欧米型の建築教育に基づく世界水準(「5年以上の専門教育」「少人数制対話型演習の重視」など)が定められています。



木造住宅から海外のリゾートホテル、膜構造の駅舎、劇場、病院など多種多様な建築設計に取り組む「建築設計演習」

建築学部

大学院 建築学 研究科



景観建築学科

大学院 景観建築学専攻

人と自然の共生を
実現できる問題解決力と
創造力をもつ
建築・景観設計技術者を
育てます。

これからの建築や都市は、水辺や集落などの文化的景観、街路樹や公園緑地を含む都市景観、屋上や壁面の緑化技術、木・紙・土のような自然素材、自然環境保全など、自然との関係がさらに重視されます。景観建築学科では、**建築とランドスケープを一体的に学ぶ**、これまでの日本にはないカリキュラムを準備。建築、自然、映像情報技術の総合的な学びを通し、自然と共生する社会に貢献できる建築・景観設計技術者を志します。



「建築」「自然との共生」「映像情報技術」を融合し、公園や都市など広域環境の設計も含む「景観建築設計演習」

「建築」の武庫女が、「建築と景観」の武庫女へ。 このステージから新たに羽ばたくのは、あなたです。

2006年の開設以来、多くの建築設計技術者を送り出してきた武庫川女子大学生活環境学部建築学科は、2020年春、女子大学初の建築学部生まれ変わりました。建築学科に加え、景観建築学科を新設。これまで建築学科が培ってきた演習中心の少人数制スタジオ型教育や体験型のフィールドワークは、両学科の共通特長として継承します。

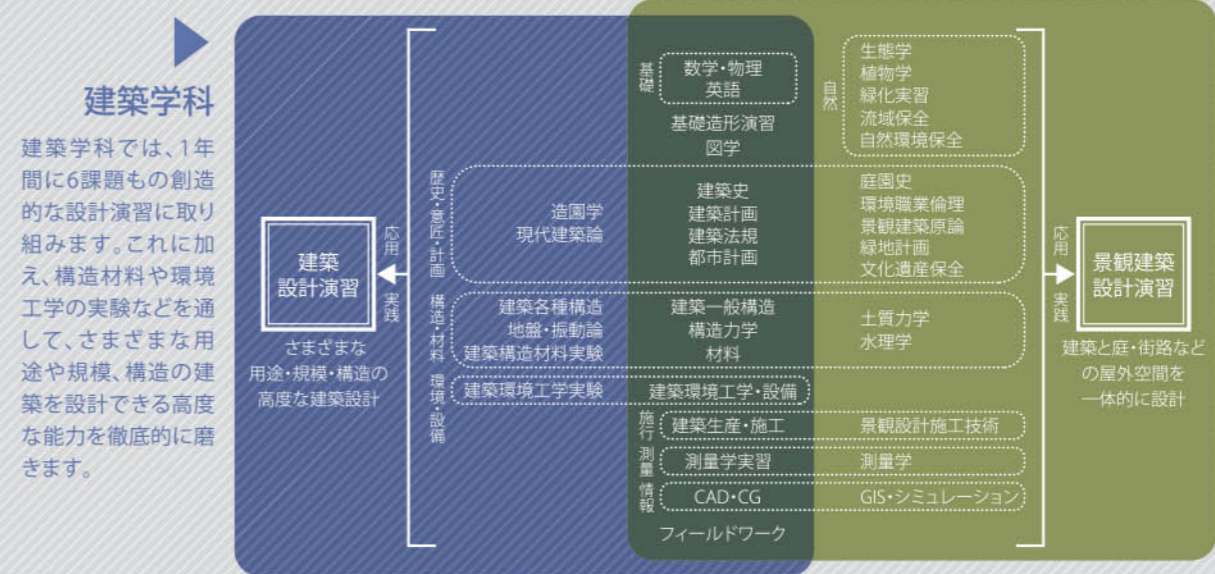
Point 1
歴史的な名建築の校舎、森、庭園。
キャンパスすべてが最高の教科書

Point 2
1人1台専用の製図機と
パソコンを備えたスタジオ

Point 3
全授業時間の半分以上を占める
少人数制 対話型の演習

Point 4
土曜日は本物を見て触れて学ぶ
フィールドワーク

2つの学科の関係と学びのキーワード



※いずれの学科も、一級建築士の受験に必要な学歴要件を充します。景観建築学科は、RLA(登録ランドスケープアーキテクト)の受験に必要な学歴要件も充足します。

建築家になる理想のステージが、ここに 있습니다。

An ideal stage on the way toward an architect



甲子園会館 スタジオ

世界で活躍する優れた建築家を育てるために。
カリキュラムはもちろん、日本で随一の学ぶ環境を用意しています。

上甲子園キャンパスの校舎は、「甲子園会館」と「建築スタジオ」。
甲子園会館は、1930年に甲子園ホテルとして建てられた名建築です。
フランク・ロイド・ライトのもとで旧帝国ホテルの設計にも携わった
遠藤 新えんどう あらたの設計による芸術作品であり、今に受け継がれてきました。
一方、建築スタジオは2007年に誕生した現代建築。
理想とする建築家教育の環境をカタチにしています。



上甲子園キャンパス全景 甲子園会館(手前)と建築スタジオ(奥)

美と技、そして叡智が結集した新旧二つの建築空間。
真の建築家を目指すあなたが高い専門技術を幅広く、奥深く学ぶとともに
知性と理性、そして感性を磨く至上の舞台となります。

感動しながら学ぶ。感動を生む建築家を目指す。

Learning through moving experiences Education for a future inspiring architect

◆学ぶ環境が知りたい ……P7~8

- ①校舎は、歴史に残る名建築「甲子園会館」と先端技術を取り入れた現代建築「建築スタジオ」
- ②1人1台専用「畳1帖サイズの製図机とパソコン」を完備し、
欧米型スタジオ教育を実践



①「建築スタジオ」のスタジオ ②1人1台専用畳1帖サイズの製図机とパソコン

◆カリキュラムが知りたい ……P5~6, 9~10

- ①1年生から専門教育がスタート! 学士課程4年+大学院修士課程2年の世界水準6年一貫教育
- ②定員45名だから実現!
「理論」「フィールドワーク」と連携した一対一の対話型演習



①1年生から専門教育 ②一対一の対話型演習

◆学生生活が知りたい

- ◎毎日が発見と感動! ①建築学科の1 day & 1年生の1 week diary ……P11~12
- ② Career support ……P13~14
- ③ Q & A ……P15~16

◆授業の特色が知りたい

- ①“アートとしての建築学”を学ぶため、全授業時間の半分以上を占める「演習」で
空間表現や建築設計の多様な課題に挑戦 ……P17~24
- ②土曜日は「フィールドワーク」へ ……P32
- ③海外研修や外国語教育も充実! トルコの大学との交流でも感性を刺激 ……裏表紙



①「演習」が全授業時間の半分以上 ②土曜日は「フィールドワーク」 ③海外研修 ④トルコの大学との交流

◆大学院のことが知りたい

- ①プロフェッショナルスクール形式の建築家教育で実践力を養成 …P25~26
- ②原寸大の空間構築体験により実践力を養う建築設計総合演習 …P27~28
- ③一級建築士の免許登録要件である「実務経験2年」に相当するインターンシップ科目 …P29~30
- ④トルコバフチェシル大学における海外実習 …P31



①大学院 スタジオ ②原寸大の空間構築体験 ③インターンシップ科目 ④トルコにおける海外実習

◆教員・研究のことが知りたい

- ◎専任教員15人に加え、スペシャリストによる非常勤講師が48人 …P33~34

武庫川女子大学をより知っていただくため、この学科パンフレットとともに大学全体を紹介する「キャンパスガイド2021」「短大ガイドブック2021」をお読みください。専門外の科目が自由に選択でき、社会に通用する教養を身に付ける共通教育、一人ひとりのキャリア形成をサポートする進路支援など、本学の学びの特長を紹介しています。

世界水準の 欧米型6年一貫教育。

Six-year-education of world standard level to educate architects who can contribute to the society.

国際社会における建築教育と建築家資格の相互承認を目的に、UNESCO（国際連合教育科学文化機関）とUIA（国際建築家連合）により、2002年に欧米型の建築教育に基づいた「建築教育憲章」が採択され、これが建築教育の世界水準となっています。UNESCO-UIA建築教育憲章では「常に全日制で専門教育5年以上」「少人数制対話型設計演習の重視」などが定められています。武庫川女子大学建築学科および大学院建築学専攻は、同憲章に対応した6年一貫の欧米型建築教育を実践しています。



6年間の学びを見守る「甲子園会館」

学士修士課程6年間のJABEE認定により、 UNESCO-UIA 建築教育憲章対応プログラム として国際的に認められるカリキュラムです。



Our curriculum is accredited as one that meets UNESCO-UIA Charter for Architectural Education.



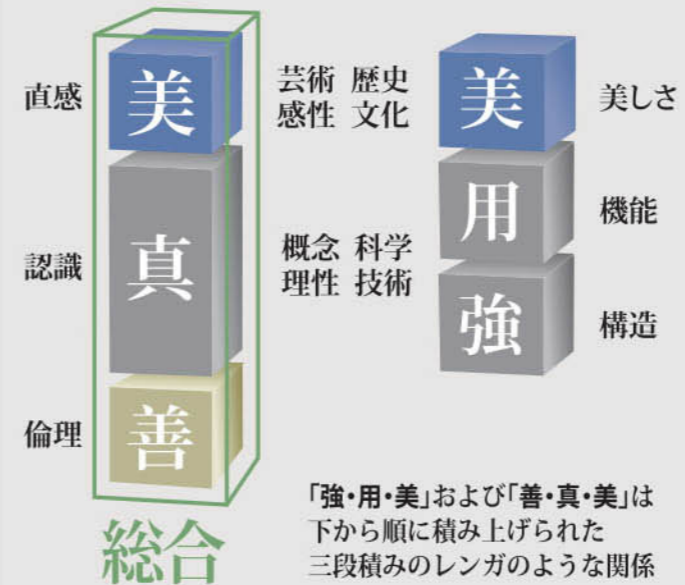
現代と歴史が調和する「建築スタジオ」

本学科・専攻の教育は、2012年度に①学士課程4年間（エンジニアリング系学士課程 建築学・建築工学および関連のエンジニアリング分野）および②学士修士課程6年間（建築系 学士修士課程 建築設計・計画系分野）のJABEE★認定を受けました。学士修士課程6年間のJABEE認定は日本で初めてです。この6年間のJABEE認定基準に適合することにより、UNESCO-UIA建築教育憲章対応プログラムとして国際的に認められました。

★ JABEE（日本技術者教育認定機構）
Japan Accreditation Board for Engineering Education

日本の大学などで実施されている技術者教育プログラムが社会の要求水準を満たしているかを審査・認定する機関です。当初は学部教育の認定のみでしたが、建築分野では学部4年間と大学院修士課程2年間を合わせた6年一貫のプログラムも審査・認定しています。

建築の三大要素「強・用・美」と 「真・善・美」。



「強」がなければ「用」はない。
「強」と「用」がなければ「美」がない。
しかし「美」がなければ建築ではない。

「強・用・美」はローマ時代の建築家ヴィトルヴィウスが提唱した建築の三大要素です。建築は安全でなければ、使いやすくても意味がありません。安全で使いやすくなければ、いくら美しくても無意味です。しかし美がなければ建築ではありません。「強・用・美」は下から順に積み上げられた三段積みのレンガのような関係にあります。

建築設計は「真・善・美」の総合。

一方、人間の理想的・普遍的な価値概念として「真・善・美」があります。建築の「強」と「用」は「真・善・美」の「真」に相当します。「美」は個人の内面の表現であり、「美」があってはじめて建築が文化・芸術たりえます。そして「善」は建築が互いに協調し、美しい町並みを形成するために不可欠な倫理の問題です。建築家教育において「善」の問題は欠かせません。

武庫川女子大学 建築学科・大学院建築学専攻 学習・教育到達目標

学士修士課程（6年間 UNESCO-UIA 建築教育憲章対応）

■育成しようとする自立した建築家像
『真』を求める「理性」を磨き、『善』を行う「人格」を練磨し、『美』を享受する「感性」を養うとともに、これらを総合できる全人的能力を身に付け、社会に貢献できる自立した建築家の育成を目指す。

■学習・教育到達目標

- (A) 高い「理性」により、「強」や「用」を含む「真」の視点から建築的事象を理解するための高度な「知識」を修得し、さらに修得した「知識」の統合により問題を解決する実践的能力を修得する。
- (A-1) 語学や諸学の基礎学力を修得、及び自らの主張を社会に提案し、合意を形成できる実践的能力を修得する。
 - (A-2) 構造や諸災害などに対する安全性を「強」として理解し、その基礎的・先端的技術を積極的に吸収し、演習や実習によって空間的に構成する実践的能力を修得する。
 - (A-3) 機能性や環境負荷などに関する快適性を「用」として理解し、その基礎的・先端的技術を積極的に吸収し、演習や実習によって最適な空間を構成する実践的能力を修得する。
 - (A-4) コスト、スケジュールなど様々な制約条件を理解し、これらのもとで、適切な設計・施工計画を進められる実践的能力を修得する。
- (B) 「感性」豊かな個性を、関連する「知識」や実践的「創作」活動により磨き、地域の「美的」、「歴史的」、「文化的」価値を理解し、グローバルな視点から地域の伝統的文化を創生できる実践的能力を修得する。
- (B-1) 基礎的造形能力を培う。
 - (B-2) 歴史、文化、国際社会、地球環境を理解する実践的知識を修得し価値観を身に付ける。
- (C) 地球環境・国家・地域社会において真に人間的な住環境を創生するために、社会的義務と責任を重んじ、グローバルな視点を持って自律的に行動する「人格」を身に付ける。
社会の仕組みや現代社会の問題点を理解する能力と継続的に学習できる能力を身に付け、自律的活動ができる職能人としての自覚を形成する。
- (D) 「真」「善」「美」の修得と同時に、価値基準が異なる「真」「善」「美」を互いに総合する能力を身に付け、安全で、使いやすく、美しい、真に人間的な住環境を創生する実践的能力を修得する。
- (D-1) 「真」「善」「美」で極めた精神世界を統合し、住環境という実在するモノの世界に具体的、実践的に実現する能力を修得する。
 - (D-2) 様々な専門家、技術者との共同の重要性を理解し、チームワークで建築をつくりこむことのできる能力を修得する。

学士課程（4年間）

■育成しようとする自立した設計技術者像
『真』を求める「理性」を磨き、『善』を行う「人格」を練磨し、『美』を享受する「感性」を養うとともに、これらを応用して社会に貢献できる、建築に関する自立した設計技術者の育成を目指す。

■学習・教育到達目標

- (A) 高い「理性」により、「強」や「用」を含む「真」の視点から建築的事象を理解するための高度な「知識」を修得し、さらに修得した「知識」を応用して問題を解決する基礎的能力を培う。
- (A-1) 語学や諸学の基礎学力を修得、及び自らの主張を社会に提案し、合意を形成できる基礎的能力を培う。
 - (A-2) 構造や諸災害などに対する安全性を「強」として理解し、その基礎的技術を積極的に吸収し、演習によって空間的に構成する基礎的能力を培う。
 - (A-3) 機能性や環境負荷などに関する快適性を「用」として理解し、その基礎的技術を積極的に吸収し、演習によって最適な空間を構成する基礎的能力を培う。
 - (A-4) コスト、スケジュールなど様々な制約条件を理解し、これらのもとで、適切な設計・施工計画を進められる基礎的能力を修得する。
- (B) 「感性」豊かな個性を、関連する「知識」や実践的「創作」活動により磨き、地域の「美的」、「歴史的」、「文化的」価値を理解し、グローバルな視点から地域の伝統的文化を創生できる基礎的能力を培う。
- (B-1) 基礎的造形能力を培う。
 - (B-2) 歴史、文化、国際社会、地球環境を理解する基礎的知識を修得し価値観を培う。
- (C) 地球環境・国家・地域社会において真に人間的な住環境を創生するために、社会的義務と責任を重んじ、グローバルな視点を持って自律的に行動する「人格」を理解する。
社会の仕組みや現代社会の問題点を理解する能力と継続的に学習できる能力を培い、自律的活動ができる職能人としての素養を理解する。
- (D) 「真」「善」「美」の修得と同時に、価値基準が異なる「真」「善」「美」を互いに総合する能力を養い、安全で、使いやすく、美しい、真に人間的な住環境を創生する基礎的能力を培う。
- (D-1) 「真」「善」「美」で極めた精神世界を統合し、住環境という実在するモノの世界に具体的、実践的に実現する基礎的能力を培う。
 - (D-2) 様々な専門家、技術者との共同の重要性を理解する。



1人1台専用 製図机とパソコン。

The personal unit of drawing table and the computer to encourage the student to execute creative work at ease



■甲子園ホテル時代の食堂を利用した、1年生の「スタジオ」

甲子園会館

フランク・ロイド・ライトの意匠を継承する独創的な名建築「旧甲子園ホテル」。シンメトリーの外観や空間は意外な変化に満ち、歩く人を上下左右に折れ曲がりながら導き楽しませてくれます。また、内外のタイル、日華石や石膏のレリーフ、シャンデリアで彩られた建築空間は、回遊式庭園や茶室も含めてまさに総合芸術です。ここで日常的に過ごすことで、アートとしての建築空間のあり方を実感。建築の保存修復技術の修得や歴史的価値などを学ぶことができます。1年生のスタジオは、時間を経ても変わらない優れた建築空間の真髄を身にしみて実感できるよう、甲子園会館に設けています。



■庭園から見た「甲子園会館」



■1年生が陶芸やフレスコ、テンペラ、瓦の制作などに取り組む、電気窯を備えた「アトリエ」



■午前中に理論科目を受講する「講義室」



■演習に使う道具や材料、画材を販売している「アートショップ」



■甲子園会館のデザインに調和した家具で落ち着いた閲覧できる「図書室」



■本物をいつでも見たり触れたりできる「大工道具室」

名建築「甲子園会館」と先端技術を集めてつくられた「建築スタジオ」という二つの校舎で学びます。入学から卒業まで、存分に建築設計に取り組めるように、1人1台専用の製図机とパソコンを備えています。畳1帖サイズの製図机とインターネットに接続した専用パソコン。学生と教員が一对一で進める対話型演習には、このスタジオ環境が不可欠です。日本ではこれほど充実したスタジオをもつ大学はほかにありません。製図机と廊下の作品展示スペースは学生一人ひとりの日々の成果を明示するショールームです。

We provide the students with personal drawing tables so that the students, while attending lectures or Design Studio, can fully tackle the desk work on campus from admission to graduation. Student's personal unit of 6x3 square feet drawing table equipped with internet-connected PC plays a very important role in smoothly and effectively facilitating Design Studio with teacher-student interactive work.



■建築スタジオに設置された2年生以上の「スタジオ」

建築スタジオ

甲子園会館と競演する建築として誕生した建築スタジオ。現代の先端技術を取り入れつつ、甲子園会館のタイルを復元して内外の壁に張り、深い庇による水平線を基調としたデザインによって甲子園会館との調和を図りました。まわりの森や植栽に溶けこむような透明性をテーマにしたモダンな建築ながら、平面と直線によって構成されるデザインは、日本的で普遍的な美をも表現。内外が融合する豊かで力強い空間にはさまざまな設計手法が散りばめられ、創造することの意義を体感しながら学べます。2年生以上のスタジオは講評室、各実験室などとともに建築スタジオにあります。



■庭園から見た「建築スタジオ」北側全景



■ガラスの展示パネルに学生の作品を展示する「ショールーム」でもある幅4.5mの「廊下」



■設計演習の作品をプレゼンテーションし講評を受ける「講評室」



■種々の照明器具を取りつけられる昇降式天井、トップライトなどを備えた「光環境実験室」



■建築構造や各種建築材料の実験機器を備えた「構造実験室」



■クレーンを備えた「施工実習室」



■修士課程1年生「建築設計総合演習II」

「感動を生む建築家」を目指す4+2年間。

Four + Two years to educate 'a future inspiring architect'

6年一貫 欧米型スタジオ教育のカリキュラム。

博士後期課程 3年	博士論文									
	後期	修士設計	修士論文							
	前期	建築設計実務	建築設計総合演習 B	建築設計技術演習 B	建築設計計画論 A	建築設計計画論 B	建築フィールドワーク VI			
大学院修士課程 2年	後期	建築設計実務	建築設計総合演習 B	建築設計技術演習 B	建築家の職能と倫理	建築計画デザイン論	建築環境設備設計論 B	建築構造設計論 B	建築フィールドワーク VB	海外保存修復実習
	前期	インターンシップ科目 一級建築士資格取得に必要な「実務経験2年」に相当	建築設計総合演習 A	建築設計技術演習 A	建築法規特論	建築施工管理論	建築環境設備設計論 A	建築構造設計論 A	建築フィールドワーク VA	
	1年生	トルコ語								
学士課程 4年	後期	卒業研究 (卒業設計・卒業論文)								
	前期	建築設計演習 V		建築設備 II	地盤・振動論	測量実習	建築フィールドワーク IV			
	後期	建築設計演習 IV		建築設計計画 IV	建築環境工学 III	建築各種構造	造園学	建築フィールドワーク IIIB		
	前期	建築設計演習 III		建築設計計画 III	建築設備 I	建築一般構造 II	建築法規 II	建築フィールドワーク IIIA		
	後期	CAD-CG 応用演習 II	建築設計演習 II	建築設計計画 II	建築環境工学 II	建築構造力学 II	都市計画・デザイン論	建築フィールドワーク IIB	海外研修	
	前期	CAD-CG 応用演習 I	建築設計演習 I	建築設計計画 I	建築環境工学 I	建築構造力学 I	近代建築史	建築フィールドワーク IIA		
学士課程 2年	後期	初級演習 II	建築物理	建築英語 II	図学・情報基礎演習 II	空間表現演習 II	建築法規 I	建築フィールドワーク IB		
	前期	初級演習 I	建築数学	建築英語 I	図学・情報基礎演習 I	空間表現演習 I	現代建築論	建築一般構造 I	日本建築史	建築フィールドワーク IA
	1年生									
共通教育科目		基礎教育科目		演習科目 全授業時間の半分以上を占める演習		理論科目 演習、フィールドワークと連携しながら幅広い知識を学ぶ		フィールドワーク科目 土曜日はフィールドワーク		
<p>専門教育科目 学部1年生から始まる充実の専門教育 ※カリキュラムは2021年4月に入学する学生のもので(予定)。</p>										

★UNESCO・UIA 建築教育憲章対応
★JABEE (学士修士課程) 認定基準適合

★JABEE (学士課程) 認定基準適合



世界水準の6年一貫建築家教育

学士課程4年間と大学院修士課程2年間を合わせた6年一貫教育は、JABEE (日本技術者教育認定機構) の認定基準(建築系学士修士課程 建築設計・計画系分野)に適合することにより、UNESCO・UIA建築教育憲章に対応する世界水準のカリキュラムとなります。また大学院修士課程のカリキュラムは「2年間の実務経験」に相当し、修了生全員が一級建築士の資格取得に必要な実務要件を満たします。学士課程4年間では、JABEE認定基準(エンジニアリング系学士課程 建築学・建築工学及び関連のエンジニアリング分野)に適合したカリキュラムにより、建築設計技術者としての基礎的能力を身に付けることが可能です (UNESCO・UIA建築教育憲章とJABEEの詳細については、P5参照)。

確かな技術と豊かな感性を養う、定員45名の少人数制教育。

Small 45-member grouping and Design Studio with teacher-student dialogue fosters solid techniques and rich sensitivity

授業は、全授業時間の半分以上を占める「演習科目」、幅広い知識を学ぶ「理論科目」、両者と関連した学外実習「フィールドワーク科目」により構成。各科目を互いに関連づけることで、相互の理解が深まり、知識、表現力、感性とも並行して身に付けることができます。さらに、複数の教員が学生と個別に対話しながらい対一の指導ができるのも、少人数制ならではの、表現力や創造力、問題解決能力を引き出す、きめ細かな授業を行います。

1年生から始まる充実の専門教育

*1~4年生の授業から抜粋して紹介しています。大学院の授業については、P25~26を参照してください。

演習科目

全授業時間の半分以上を占める教員と学生一対一の対話型演習

午前中は講義、午後は演習です。演習科目は、実に全授業時間数の半分以上を占めます。1年生では、いけばな、絵画、木工、陶芸やさまざまな造形演習に取り組み、感性と創造力を徹底的に磨くと共に、本格的な問題解決型の建築設計に取り組みます。2年生からは前期、後期各3課題という欧米並みの充実した設計演習を行います。1学年定員45人を3人の教員が担当し、教員が各学生の製図机をまわって一対一のきめ細かい指導を行います。また、演習に必要な材料のほとんどが大学から支給されます。



建築設計演習 I~V 2~4年生

一人ひとりに専用の製図機とパソコンのあるスペースで、教員が学生と一対一できめ細やかな指導を行います。建築設計課題を通して、さまざまな空間構成手法を修得。最後の講評会では2日間にわたって全員が作品発表を行い、学外の建築家や他大学の教授、専門技術者の講評を受けます。(P19~24参照)



理論科目

現代建築論 1年生

建築空間と人間行動の関係や現代建築の現状を理解。概念の変遷、技術革新、都市化、地域性や歴史性、自然環境や風景について考察しながら、新しい生活や価値観に基づく現代建築像を探ります。

建築設計計画 I~IV 2・3年生

建築を設計する上での基礎知識としての、建築計画の必要性とその全体像を理解します。また人間生活、産業、経済などと建築計画との密接な関係を理解し、それを踏まえて建築を設計、計画する力を付けることを目指します。



日本建築史 1年生

日本建築の様式、空間構成、構造、意匠などを種別ごとに取り上げ、特徴をとらえます。地域文化や社会、経済などと建築との関係を理解。寺社建築や城郭、茶室、数寄屋建築などをフィールドワークで見学し、理解を深めます。

建築環境工学 I~III 2・3年生

身の回りの光・音・熱などの基礎的な物理現象を理解し、採光・防音・換気など環境を調整する設計手法を学びます。また、世界が直面している環境問題を認識し、環境と共生する姿勢を養います。

建築構造力学 I・II 2年生

重力、地震、風などによる荷重に対して建物ごどのような挙動をするのかを理解し、安全な建物をつくり上げるための技術を習得します。また、実例を紹介しながら、実際の構造設計の過程や、構造設計と建築設計の関わりについて学習します。

フィールドワーク科目 土曜日はフィールドワーク

土曜日は、貸し切りバスなどでフィールドワークに出かけます。演習や理論科目に関連した敷地や街並み、参考建物、建設現場などを見学し、担当教員や見学建物の建築主や設計者、技術者から説明を受けます。講義や演習で習った知識や技術をより具体的に理解し、実践的な力を養います (P32参照)。



建築学科の 1年生の 1 day & 1 week diary

毎日の発見と感動が、
建築家への道を歩むエネルギー。

The discoveries and impressions of everyday provide energy for stepping toward a professional architect

本学科の1日と1年生前期の1週間の例を紹介します。Let's look at a day in the Department of Architecture and a week for freshmen in the first semester.

午前は講義

1限目
9:00
↓
10:30
2限目
10:45
↓
12:15



現代建築論



建築構造力学



建築英語

理論科目

基礎教育科目

Input

1年生の前期から、建築に特化した専門教育がスタートします。その時々々の演習課題に関連した内容だけでなく、建築設計に必要な幅広い知識を学びます。

Lunch Time

午後は演習

3限目
13:05
↓
14:35
4限目
14:50
↓
16:20
5限目
16:30
↓
18:00



空間表現演習



建築設計演習



建築材料実験



演習科目



建築設計演習



測量実習

理論科目

Output

学部1年生では造形の基本を学び美を表現する「空間表現演習Ⅰ・Ⅱ」、学部2年生からは午前の講義やフィールドワークで得た知識を生かしながら「建築設計演習Ⅰ～Ⅴ」に取り組みます。

土曜日はフィールドワーク : 詳しくは P32 をご覧ください

Monday

AM: 共通教育科目 (中央キャンパス)
General Education Courses
PM: 共通教育科目 (中央キャンパス)
General Education Courses



朝8時過ぎ、スタジオにある自分の机に。メールチェックは朝晩の日課。月曜は約250科目から選べる「共通教育科目デー」なので、8:40のスクールバスで中央キャンパスへ。ランチと空き時間は、食堂やカフェで過ごすのが楽しみ。木曜の「建築数学」の予習もしなきゃ。

Thursday

AM: 初期演習、建築数学
Seminar for Freshman Student, Mathematics for Architects
PM: 空間表現演習
Basic Design Studio



「初期演習」では、大学生活のスタートアップとして学ぶためのスキルを学んだり、将来のことを考えたりする。「建築数学」では、建築と数学の関連を学んで知識の幅を広げたい。午後は「空間表現演習」でアトリエで創作。つい夢中になって時間を忘れてしまふけれど、放課後までいられるのでじっくり取り組める。

Tuesday

AM: 建築英語
English for Architects
PM: 空間表現演習
Basic Design Studio



「建築英語」は聴いて話すことに重点を置いた授業。建築に関するプレゼンテーションの課題もある。将来は海外へ留学したいので、英語はしっかり勉強したい。午後はアートショップに寄ってから、「空間表現演習」。職人や芸術家から直接指導が受けられる楽しい演習。自分のイメージを表現することも、みんなの前で発表することも、自分自身や作品、先生との対話が大切だと感じる。

Friday

AM: 建築一般構造
Building Method
PM: 図学・情報基礎演習
Computer Literacy & Descriptive Geometry



「建築一般構造」では、木造やRC造などの構造種別、部材の名称などを学ぶ。ランチは、友だちと甲子園会館の食堂で。「図学・情報基礎演習」では、自分の思っていることを自由自在に表現できるよう、先生たちのアドバイスをしっかり聴いて、パソコンを早く使いこなせるようになりたい。

Wednesday

AM: 日本建築史、現代建築論
History of Japanese Architecture, Modern Architecture
PM: 共通教育科目 (中央キャンパス)
General Education Courses



「日本建築史」で学ぶ建築様式や空間構成などは、フィールドワークで寺社建築などを実際に見ることで理解が深まる。「現代建築論」では、建築家の役割、倫理の問題など、21世紀の建築に求められることを多角的に学ぶ。午後、共通教育科目を選択している人は中央キャンパスへ。選択していない人はアトリエやスタジオで空間表現演習の課題の続きに取り組みんだりしながら過ごす。

Saturday

建築フィールドワーク
Fieldwork for Architects



土曜日は「建築フィールドワーク」。次はどこだろう? どんな発見があるだろう? とドキドキワクワク。お寺やお庭、有名な建築、工事中の建築現場などを見学できて、現場で実際に働いている方々のお話も聴ける。またとない機会。それに、スライドや教科書と実物を見るのでは大違い。自分の目で見ないとわからないこと、その場でスケッチしてみても気づくことがたくさんあるんだと実感する。

Professional education for freshmen begins in the first semester

Lectures of theoretical subjects in the morning and the Design Studio in the afternoon are held on weekdays. Students may tackle the assignments when there is no lecture or after the class using the drawing table and the PC for private use. Saturdays are for the fieldwork, where the students can concretely understand the knowledge or techniques which they have learned in the lectures and Design Studio.

Career support

将来像を現実に。一步一步を確実にサポート。

建築設計事務所や大手建設会社の採用試験では自分の作品のプレゼンテーションを行い、さらに与えられた課題を数時間で設計することにより、実力を試されます。単に学歴だけで会社に採用されることはありません。授業の中で感性を磨き、見識を深め、技術を高めることこそが、最大の就職活動です。建築学科および建築学専攻は、実力を身に付けるためのカリキュラムと環境を用意し、あなたの夢の実現をサポートします。また、充実したインターンシップを含む実践的なカリキュラムにより、一級建築士の資格取得に必要な「実務経験2年」を充足します。

キャリア支援の流れ

STEP 1 未来探し、自分磨き 学部1年生～3年生前期

キャリアプランを考える冊子「キャリアガイドブック」を配布。建築分野ならではの就職活動プロセスや、建築技術者を目指す心構え、建築分野におけるさまざまな職種や資格について説明会を実施し、あなたの将来像と修得すべき能力を具体的にイメージするためのサポートをします。学科のキャリア担当教員やキャリアセンターのカウンセラーが相談に乗ります。



キャリアカウンセリング

STEP 2 進路選択 学部3年生後期～学部4年生

学部卒業後に、大学院に進学するか就職するかを選択します。国際社会の第一線で活躍を目指す学生には大学院進学を積極的に支援します。学部卒業後に就職を希望する学生には、キャリアセンター主催の就職ガイダンス、学内企業説明会、就活特訓講座、模擬面接、個別就職相談などのさまざまなプログラムを用意しています。また希望者には、学科の紹介による建築設計事務所などでのインターンシップ(就業体験)も可能です。



設計事務所でのインターンシップ

STEP 3 就職に向けての最終準備 大学院修士課程1年生

建築設計事務所や建設会社の方を招いて、会社概要や就職活動のスケジュールや必要な準備、注意点などを説明していただき、設計・施工・開発などの志望職種を具体的に決める手助けをします。また、授業の一環として即日設計の指導やインターンシップ(必修)を行います。大学院でのインターンシップが就職活動へとつながる契機となることもあります。授業では一級建築士受験対策も実施します。



建築関連の企業の方を招いての説明会

STEP 4 進路決定 大学院修士課程2年生

就職特訓講座、エントリーシート個別指導などで内定獲得まで支援します。研究職を目指し、博士後期課程への進学を希望する場合も、女性研究者支援センターが研究活動をサポートします。

一級建築士取得に必要な学歴要件を充足

一級建築士取得に必要な実務経験を充足

■ 未来の主な進路

- ※修士課程修了者の就職率 100%
- ※学部卒業者の就職+進学率 100%

- 設計事務所(建築、インテリア、構造、設備などの設計)
- 総合建設会社(設計、施工管理など)
- 住宅メーカー(設計、施工管理、営業など)
- 住宅設備機器など建築関連企業(キッチン、インテリア、家具の商品開発、営業など)
- ディベロッパー(不動産活用、マンションなどの事業・施設企画、営業など)
- コンサルティング企業(調査、事業・施設企画など)
- 官公庁(国土交通省、府・県庁、市役所などでのまちづくり、都市計画、確認審査など)
- 教育研究機関(大学などでの教育、研究)

■ 目指す資格・取得できる受験資格

- 一級建築士 ※登録には学部卒業後実務経験2年以上必要。ただし本学大学院建築学専攻修士課程の修了は実務経験2年とみなされます。
- 二級建築士
- 木造建築士
- 建築設備士 ※学部卒業後実務経験2年以上必要。大学院における建築設備の研究は、それに従事した期間相当の実務経験とみなされます。
- 1級建築施工管理技士 ※学部卒業後実務経験3年以上必要。
- 2級建築施工管理技士 ※学部卒業後実務経験1年以上必要。
- 建築基準適合判定資格者 ※一級建築士取得後、建築行政または指定確認検査機関で実務経験が2年以上必要。
- インテリアプランナー登録資格

Message from OG 卒業生からのメッセージ



株式会社 坂倉建築研究所
堀内 環美さん (本学科7期生/2016年3月に建築学科を卒業、2018年3月に大学院建築学専攻修士課程を修了)

現在は集合住宅の基本設計、主に住戸プランの計画や模型の作成を担当しています。仕事では、毎回自分なりにテーマをもって取り組むように心がけています。これは、在学中にさまざまな課題と向き合うことで身に付いた姿勢です。特に卒業設計・修士研究での「境界」というテーマは、今でも私の設計活動の軸になっています。都市から住宅まで幅広いスケールの建築に関わり、それぞれのストーリーを伝え、計画を実現するために大切な主題であると感じています。また、建築を学ぶ上で重要なのは、生の空間体験だと思います。学生時代は、身近にある甲子園会館と建築スタジオという優れた建築から、素材やディテール、建築と自然環境との関係、スケール感覚などを日常的に学ぶことができました。今でも大学の同期を誘って、建築を見にさまざまな場所を訪れるようにしており、建築と周辺環境の魅力を体験し、理解することで設計業務に展開できるよう努めています。



株式会社 日建設計・設計部門 設計部
尾崎 綾さん (本学科6期生/2015年3月に建築学科を卒業、2017年3月に大学院建築学専攻修士課程を修了)

勤めている建築設計事務所では、建築学科の卒業生として私が初めての入社でした。昨年先輩が入社し、誇らしく感じています。入社試験では、定められた時間内に建物のプランを作り、プレゼンテーションを行う「即日設計」という課題がありました。在学中に数え切れない課題をこなし、先生方に発表した経験があったからこそ、この試験に合格できたのだと思います。入社して4年目を迎え、現在は意匠設計に携わっています。この仕事は建設全般に関わるため、必要な知識が膨大で責任も大きく、クライアントとの交渉も難しいものがありますが、学生時代に身に付けた精神力で乗り越えています。仕事のやりがいには手掛けた建物が竣工した時に感じる、何ものにも代え難い達成感です。また、念願の一級建築士の資格も取得できました。今後、発注者から「もう一度、設計を任せたい」と声を掛けていただけるような設計者として、成長を続けたいと思います。



株式会社 昭和設計・建築設計部
衣川 桃さん (本学科6期生/2015年3月に建築学科を卒業、2017年3月に大学院建築学専攻修士課程を修了)

建築設計部の一員として、医療・福祉施設や教育施設など、さまざまな用途の建築に携わっています。BIM (Building Information Modeling) を用いて、提案から計画、製図まで建物を立体的に捉えながら設計を行っています。設計業務において、お客さまの思いを建築のかたちや空間にすることはもちろん、お客さまや会社の上司、先輩方に、自分の思いを伝えることも重要だと感じています。また、言葉だけでなく図面でも表現できることが設計の面白さだと考えています。在学中はフィールドワークや海外研修で、さまざまな建築や風景をスケッチし、そこからデザインを学びました。建築設計演習では、その知識を生かして建築作品を制作し、自分の思いを図面や模型、透視図を用いてプレゼンしました。プレゼンを重ねることで身に付いた表現力は、今仕事をすすめる上での重要なスキルとなっています。これからも大学生活で学んだことを生かし、成長していきたいです。



清水建設 株式会社・建築設計部
馬場 あさひさん (本学科3期生/2012年3月に建築学科を卒業、2014年3月に大学院建築学専攻修士課程を修了)

意匠設計チームの一員として、工場・物流倉庫などの生産施設や、医療施設を担当しています。クライアントをはじめ、上司や先輩方、施工者など、さまざまな人々と関わりながら仕事をしています。設計をする際は、機能や全体の統一性、コストなど、ニーズを把握した上で自分のアイデアを加えます。設計途中で悩むこともありますが、学生時代に学んだ建築に関する考え方が現在の私の基礎となっています。特に、設計演習やフィールドワークで培ったスケッチ力が、時間のない中で自分の考えを形に表すツールとなっています。また、職場に同じ大学の先輩がいるので、心強くもあり、私の目標でもあります。卒業後もスキルアップの精神は忘れず、2015年12月に一級建築士の資格を取得しました。今後も腕を磨き、将来は街のランドマークになるような建物を作りたいです。



武庫川女子大学 景観建築学科 助教
田中 佑奈さん (本学科5期生/2014年3月に建築学科を卒業、2019年3月に大学院建築学専攻博士後期課程を修了)

建築学専攻・博士後期課程を修了し、助教として建築教育と研究に携わっています。学部生の頃から、まちづくりや都市計画に関心があり、さまざまな都市の景観についてより深く研究したいと思い、大学院に進学することにしました。修士研究では大阪市空堀地区を対象に、帰納論理プログラミングを用いた分析により、自然発生的な路地の街並みの特徴を明らかにしました。博士後期課程ではさらに視野を広げ、日本だけではなく世界の伝統的な街並みを自分の眼で観察し、それぞれの街並み景観の特徴についての研究を行ってきました。また、研究と並行しながら、学内の一級建築士事務所でも取り組んでいる阪神電車 鳴尾(武庫川女子大前)駅などの設計にも携わりました。これらの経験を教育活動に生かしながら、自身の実践的な設計スキルを磨き、将来は地域再生や街並み保全等に貢献できる研究者+建築家となることを目指しています。

Q&A

建築学科・建築学専攻の『?』にお答えします。

Q1 数学や物理に不安があるのですが、大丈夫でしょうか？

A 本来、建築とは自然科学だけでなく人文・社会科学、芸術とも深く関わる諸学の総合です。そのため本学科では、数学Ⅲや物理を十分に学んできた人はもちろんのこと、これらに不安がある人でも、数学、英語および国語等の基礎学力があれば広く受け入れています。しかし、構造力学や環境設備工学など建築を専門的に学び、将来、建築士の資格を取得する上で、数学や物理の理解は必要不可欠です。そこで、学部1年生の前期にリメディアル教育講座を課外に開講し、数学と物理のうち高校で学習できなかった部分、および理解が不十分であった部分を学習できるように配慮しています。

Q2 工学部の建築学科ではありませんが、一級建築士の受験などで不利になりませんか？

A 本学科では、構造や設備の最先端の実験室を完備し、実験・実習環境も充実しています。環境、設備、構造、材料、施工など、建築を学ぶ上で必要な科目は全て開講しています。また、充実したインターンシップ科目を含む大学院修士課程の教育は、「実務経験2年」相当と認められており、修了生全員が一級建築士の資格取得に必要な実務要件を満たします。さらに日本で初めて建築系修士課程のJABEE(日本技術者教育認定機構)認定も受け、世界水準の建築教育として国際的に認められています。工学部にある建築系学科と比べて不利になることは一切ありません。

Q3 一人ひとりに専用の製図機が必要なのはなぜですか？

A 欧米の大学の建築学部では、1人1台専用の製図機が確保されています。これに対し、日本のほとんどの建築系学科では、学生数に対して製図機の数が圧倒的に不足しています。1台の製図機を複数の学生が共有しているため、大学で腰を据えて作業に取り組むことができず、家で作業するようになります。教員の指導が十分に受けられないだけでなく、学生同士で刺激を与え合う機会も減ります。日本の建築設計教育が、諸外国と比べて貧弱であるといわれている理由の1つです。欧米並みの対話型演習を中心とした実践的な建築家教育は、十分な作業空間を確保してはじめて可能になるのです。また、そのためには本学科のような少人数制が不可欠なのです。

Q4 設計演習の模型材料やフィールドワークの費用はどれくらいかかりますか？

A これらの基本的なものの費用は、学費に含まれています。本パンフレットのP17~24、P27~30で紹介しているように、学部1年生の空間表現演習では約20課題、学部2年生から大学院修士課程2年生までの建築設計演習では、1年間に6課題に取り組み、多くの図面や模型を制作します。演習に必要な模型材料の中で、主要なものは支給されます。また、フィールドワークでは、東は愛知県、西は広島県の広範囲にわたり、1年間に30~40箇所を見学します。建物の見学科・拝観料や遠方へフィールドワークに行く貸し切りバスの費用は、学費の中に含まれています。

Q5 大学院に進学せず、学士課程4年間だけで卒業することは可能ですか？

A 可能です。ただし、学部の4年間だけでは5年以上の教育期間を要求しているUNESCO-UIA建築教育憲章には対応できません。また、現在主要大学の建築学科では、卒業生の約半数が大学院修士課程に進学しています。建築設計事務所や建設会社などで設計の専門職として活躍している人の大部分は、大学院修士課程修了者です。

Q6 アルバイトやサークル活動はできますか？

A 学部1年生から大学院修士課程2年生まで、多くの演習に取り組みます。作品をつくるには時間がかかります。宿題や提出締め切りも日常的にあり、授業時間外も作業に取り組む必要があります。そのために1人1台専用の製図機とパソコンが用意されているのです。アルバイトやサークル活動は全くできないとは言いませんが、かなり制限されます。

Q7 コンピュータのスキルを磨くこともできますか？

A 1人1台専用のパソコンと製図機を備えたスタジオで、学部1年生では「図学・情報基礎演習」、学部2年生では「CAD・CG応用演習」に取り組みます。学部1年生の情報教育は、教員一人あたり15人程度の学生を指導する少人数制で、文書作成や表計算の基礎から、3次元CAD・CGソフトの高度な活用まで、建築設計に必要な情報リテラシーを全員が身に付けます。

建築学科・建築学専攻 在校生^{*}の活動を紹介します。



構造などの実験を重ねて 原寸大の建築空間の制作に挑戦

大学院修士課程の演習では、デザインだけでなく、構造や施工方法など設計に関わる技術を総合的に学びます。本学科には、実験機器を備えた「構造実験室」やさまざまな照明器具やトップライトを備えた「光環境実験室」、クレーンを備えた「施工実習室」などの施設があります。そこで行う実験を通して得た知識や情報をもとに詳細図や模型を制作し、建築作品に仕上げます。演習での成果は、毎年、学生主体で開催する「建築学科・建築学専攻 作品展」や日本建築学会大会などで発表しています。

大学院 修士課程 2年生
堀内 嘉乃 さん
(川西緑台高校出身・兵庫県)



見て触れて学ぶ フィールドワーク・海外研修

土曜日に行われるフィールドワークでは、設計課題の参考建物や歴史的建造物の見学に行きます。他にも、非公開の建物や建設現場など一般には見られない場所に行き、専門家や技術者による解説を聞くことで、楽しみながら学べます。夏休みの2週間を利用して、海外研修も行います。「世界建築史」などの講義で学んだ知識について理解を深めるとともに、日本の建築文化との違いや特有の都市景観など学ぶために、実際に現地へ赴いて本物の建築空間を体験します。

大学院 修士課程 2年生
立川 紀子 さん
(伊丹北高校出身・兵庫県)



演習では、竹のシェル構造による原寸大のベンチ「鼓乃座」(このくら)を制作しました。材料の特性を知るため制作実験を繰り返し、学生の共同作業により設計や施工、工程管理やコスト調整も行っています。

2017年の夏季休暇期間に実施された海外研修に参加しました。北イタリアを中心にヴェネツィア・ラヴェンナ・フィレンツェ・ミラノなどの8都市を巡り、訪れた歴史的建造物や町並みのスケッチや実測を行いました。



授業では、「理論科目」「演習科目」「フィールドワーク」を連携して学び、相互理解を深めます。そのなかでも、全授業時間の半分以上を占める、一対一対話型の「演習科目」について紹介します。

STEP1 ● 学部1年生
STEP1 Freshmen

造形の基本を学び、 美を表現するチカラを養う。

Students foster the ability to express the beauty through learning the basics of plastic arts.

建築の三大要素「強」「用」「美」のなかでも、自分の内面と向き合うことで養われる「美」の表現力について学びます。立体作品のほか、木工、陶芸、いけばな、モザイク画、フレスコ画、瓦の制作などさまざまなテーマに挑戦。専任教員に加え、課題ごとに学外から招いた専門家の指導も受けます。

Students learn the three elements of architecture 'Strength', 'Utility' and 'Beauty', with an emphasis on the last one, as the ability of expressing inherent beauty of the subject is developed by facing one's inner self. Various assignments are given in addition to the solid pieces, such as 'Woodwork', 'Pottery', 'Ikebana', 'Mosaic', 'Fresco' and 'Tile'. Teaching staff includes our permanent instructors and outside professionals in the relevant field invited according to the specific assignments.

空間表現演習 I・II Basic Design Studio I・II

専門家から直接手ほどきを受け、美の本質を理解

Students learn the basics from artists who inherit traditional arts to understand essential qualities of beauty

瓦職人とつくる甲子園会館の「瓦」

'Kawara' of Koshien Hall made in collaboration with a traditional tile-maker

タタラ盛りという伝統的な手法で、甲子園会館の瓦の復元に挑戦します。学生たちは、1.タタラ盛り、2.分決め、3.荒地取り、4.荒地切り、5.水撫ぎ、6.施釉、7.焼成の各工程からなる瓦の制作から、最後の甲子園会館の屋根瓦の葺替に至るまで一連の流れを経験。保存修復の現場を身をもって体感します。



※2009年には当時の皇太子殿下（現天皇陛下）が瓦の制作実習を御視察になられました(右下写真)。



浅田 昌久 講師
浅田製瓦工場代表。京都で2軒のみ残る伝統的手法を継承する瓦業元の三代目。

陶芸家とつくる「土のオブジェ」

Pottery 'Earthen objet', collaboration with a ceramic artist

土と火の芸術「陶芸」に挑戦。信楽の土を使い、ろくろの上で手びねりで高さ30cmほどの四角筒をつくります。下から5cmをベースとして残し、切り取ったパーツを余らせることなく切り分け、ベースの上に造形。材料の特性も考えながら、じっくりつくることの大切さも学びます。作品はアトリエにある電気窯を使い、1250℃で還元焼成。「いけばな」の花器にも使います。



南野 馨 講師
陶芸作家/造形作家。陶を用いた大型造形作品を制作し、個展開催や芸術祭での展示等で活動。大阪芸術大学でも講師として指導に当たる。

華道家と表現する「いけばな」

Japanese flower arrangement 'Ikebana' performance with a professional artist

花を際立たせるために不要なものをそぎ落としていく「引き算の美」いけばな。枝ものや草花を使って天(太陽)や地(地球)を構成し、小宇宙を表現する「盛花」の基本形を学習。仕上げとなる「大作いけばな」では、グループに分かれて等身大の花器にいけこみ。主にする花や枝を決め、その美しさを表現するために、これまで学んだことを念頭に、試行錯誤を繰り返すことで、花の良さを最大限に生かす表現法を養います。



笹岡 隆甫 講師
「末生流笹岡」家元。狂言やミュージカルでの「いけばな」パフォーマンスなど、舞台芸術としての「いけばな」の可能性を追求している。

家具職人とつくる「木のオブジェ」

Woodwork 'Wooden objet', collaboration with a furniture maker

テーマは、直方体の木を組み合わせてオブジェをつくること。木材の感触を確かめ、自分のイメージを思い描きながら手を動かし、組み合わせていきます。大工道具の使い方を学び、「削る」「切る」「彫る」といった作業を通じて、木の特性、木目の表現法を考えながら造形。モノづくりの基本である道具を使いこなすため、自分の体になじませることの大切さも理解します。



黒岩 絵里子 講師
組子細工の技法を取り入れ、幅広く木の製作活動を行う。また、森の資源の循環をテーマにした木育ワークショップなど。

空間表現演習 I・II Basic Design Studio I・II

多彩な課題で表現力を磨き、建築設計にも挑戦

Students develop expressive power through a variety of assignments and also take on architectural design

■平面と透視体や鏡面による構成

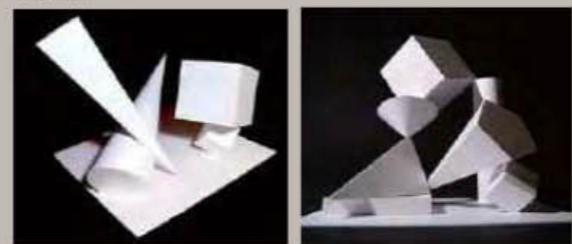
紙やボード類を使い、平面だけで構成された空間のおもしろさを考えます。透視体は透明や半透明のガラス、鏡などが可能にした空間、鏡面はガラスや水に反転した世界を映し出すことでできる新たな空間を表現。意外性のある空間の構成力を養います。



神戸龍谷高校出身(兵庫県) 福山高校出身(広島県)

■基本立体による造形

構成の明快さ、視覚的な力強さを感じる絵画や現代建築には、基本的な立体が使われています。円錐や球、直方体などをつくらせて組み合わせながら、力強く明快で、しかも安定した空間を構成する手法を探ります。



北須磨高校出身(兵庫県) 清教学園高校出身(大阪府)

■紙と力

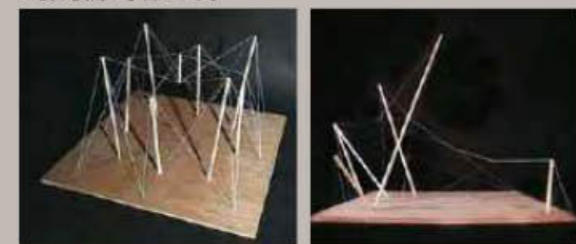
薄い紙も折り曲げることにより強さと剛性が生まれ、空間を覆うことができます。大空間の建築をイメージしながら、紙を折り曲げて約20cmの立方体を覆う美しく強い空間をデザイン。力を合理的に伝えられる形を最小限の材料で美しく構成する手法を学びます。



三国丘高校出身(大阪府) 県立西宮高校出身(兵庫県)

■引っ張りと圧縮

糸やケーブルなどの引張材は引張の力に対して大きな強度を発揮し、鉄や木の柱などの圧縮材は、圧縮の力や曲げの力に対して強度を保ちます。「糸」と「ヒノキの角材」を用い、材料の力学的な特性を生かして大空間を覆う技術を学習します。



伊川谷北高校出身(兵庫県) 初芝富田林高校出身(大阪府)

■甲子園会館の透視図

建築学部の学舎である甲子園会館の透視図を描きます。普段何気なく目にして甲子園会館のプロポーションや細部の意匠、陰影などを改めて観察するとともに、人間が知覚する外界の対象物のイメージと、透視図法による表現との違いを体感し、空間の知覚と表現について理解を深めます。



出雲高校出身(島根県) 北須磨高校出身(兵庫県)

■折りの空間の設計

「空間表現演習I・II」の集大成として「折りの空間」の設計に取り組みます。仏像をスケッチし、さまざまな宗教の根源に見られる「折り」の現象をよく理解して、西宮市のシンボルともいえる甲山の傾斜地に小規模の建築を構想します。課題に関連して数回のフィールドワークを行い、京都・奈良の寺院や伊勢神宮を見学し、周辺の自然環境を生かしながら非日常の空間を探求します。



初芝富田林高校出身(大阪府)



伊川谷北高校出身(兵庫県)

※学生による作品写真と出身校を掲載。

伝統の技と建造物に学び、心に響く空間を追求する。

Students seek for heartfelt space through learning traditional techniques and buildings.

STEP2 ● 学部2年生

STEP2 Sophomore

建築設計演習Ⅰ 2年生前期 Sophomore, the first semester Architectural Design Studio I

「伝統的な木造空間の理解と設計・平面の構成による設計」
‘Comprehension of the space in traditional wooden structure and working out of own design’

課題1 クラブハウス

ひとつ屋根の下の大空間を機能的に分割・構成した木造クラブハウスを設計します。フィールドワークで歴史的木造建築や施工現場を見学。学び取った構法や表現手法を参考に、自身のイメージを投影しながら、設計条件に基づいた図面や模型を制作。外部の専門家も加わっての講評会で、指導と解説を受けます。建築現場の見学や、木造の組立て実習を通して伝統的な木造建築や大工の技を体感します。



クラブハウスの見学



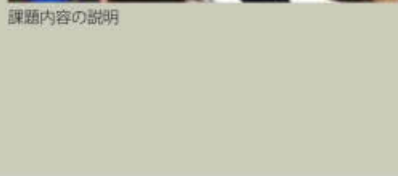
フィールドワークで木造住宅の現場を見学



課題内容の説明



明石北高校出身 (兵庫県)



雲雀丘学園高校出身 (兵庫県)

課題3 学生会館

学生が課外に利用するための「甲子園会館の横に建つ学生会館」を設計します。平面による構成を基本とし、模型づくりとスケッチを繰り返して空間を3次元的に構成する感覚を鍛えるとともに、甲子園会館との関係を通して周辺環境との調和に配慮した設計を行うことを学びます。

★国際建築ワークショップ (Inter Cultural Studies of Architecture (ICSA) in Japan) の一環として、2009年よりトルコのバフチェンヒル大学からの留学生も一緒に学んでいます。



武庫川女子大学附属高校出身 (兵庫県)



今宮高校出身 (大阪府)

課題2 家族のための家

まず、「眠る」「食べる」「団らんする」といった生活における空間の寸法や形態を理解。ひとつの空間に多様な機能を持たせる意義を考え、日本の伝統的な庭と内部空間の関連付けを修得。住宅設備のショールームをはじめ、美しい借景や庭園を持つ社寺仏閣など、フィールドワークで感じ取った知識や空間構成を作品に反映。快適で心豊かに暮らせる住宅の設計手法を学びます。



講評会には学生のご家族も多数ご出席



雲雀丘学園高校出身 (兵庫県)



武庫川女子大学附属高校出身 (兵庫県)

※学生による作品写真と出身校を掲載。

前期は、木造建築の設計方法や構法を学ぶとともに、平面によって空間を構成する手法を修得。後期は、周囲の自然環境や既存の建築と調和させながら空間を構成する手法を学習。自分自身や教員と対話を積み重ね、設計手法や、空間構成力を身に付けます。

In the first semester, students learn the methods of designing and construction techniques of Japanese traditional wooden structures as well as the methods of constructing a space with planes. In the second semester, they learn the technique to constitute a space while harmonizing it with the surrounding natural environment or existing constructions. They develop the techniques or abilities of designing and spatial structuring through Design Studio with teacher-student dialogue.

建築設計演習Ⅱ 2年生後期 Sophomore, the second semester Architectural Design Studio II

「敷地の読解と新しい風景の創造」
‘Interpretation of the site and creation of new landscape’

課題1 幼稚園

折れ曲がりながら雁行する、平屋建ての幼稚園を設計します。テーマは、それぞれ異なる複数の空間と機能を連結させて全体を構成すること。機能の異なる部屋のつながり、形の異なる屋根のつながり、部屋と運動場、庭、周囲の自然とのつながりを構成し、各空間を有機的に結びつける手法を習得し、新しい風景を創造します。



フィールドワークで木造の学校を見学



教員を囲んで案の検討



河南高校出身 (大阪府)



新川高校出身 (愛知県)

課題2 歴史都市に建つ美術館

異なる時代に建てられたさまざまな様式の建築との調和をテーマに、歴史都市に新たな都市景観を生み出す美術館を設計します。フィールドワークでは、敷地周辺の歴史的建造物との関係、植栽や山並みなどの自然景観について調査し、単体の美術館としての機能面からも考察を重ねながら図面と模型を制作。隣接する建物や都市景観との調和、その建築による景観の変化を検討するとともに、景観と調和する建物が必ずしも隣接する建物と類似したデザインではないことを学びます。



フィールドワークで課題の敷地である京都・岡崎公園を見学



須磨翔風高校出身 (兵庫県)



足腰高校出身 (兵庫県)



武庫川女子大学附属高校出身 (兵庫県)

課題3 レストハウスと自然景観の風景化

テーマは、自然景観に人工の建築を加えることで、美しい「風景」へと変貌させる手法の習得。敷地一帯の地形を分析し、実際に歩いて地形や風景を体感。CADで作成した3次元モデルに敷地写真を合成して透視図を作成し、背景の山並みとの調和を確認します。そこから修正を繰り返し、建築物を含めた風景全体を検討。さらに、最適な室配置や動線の計画方法についても学習します。美の追求とともに、多様な問題を解決する能力を磨きます。



フィールドワークで敷地の甲山貯水池周辺を見学



京都聖母学院高校出身 (京都府)



三島高校出身 (大阪府)



武庫川女子大学附属高校出身 (兵庫県)

安全・快適で豊かな生活空間を創造する。

Students create safe, comfortable, and rich space of lives.

STEP3 ● 学部3年生

STEP3 Third year students

建築設計演習III 3年生前期 Third year students, the first semester Architectural Design Studio III

「家族・友人・地域 人と社会の結びつき」
‘Family, Friend & Community: Relationship of an individual and the society’

各世代の行動特性、健康状態や行事、世代間交流、近隣との付き合い、庭の維持管理などを記録し、それらを実現する住空間を家具や生活道具とともに構成。両親から機能的・美的要求を聞き、スケッチや模型を用いて打ち合せを繰り返して提案をまとめ、居住者と共同して理想的な住空間を構成する能力を養います。

課題1 両親と三世代で住む家



床から天井までの全面がホワイトボードの可動間仕切りを使いながら解説



現地調査では敷地東側の武庫川さくら並木の現況を確認



向陽台高校出身 (大阪府)

課題2 歴史的都市に建つ宿泊施設



敷地周辺の模型も制作 歴史ある都市への理解を深めながら設計する



夢野台高校出身 (兵庫県)

イスラム寺院などの歴史的建造物が多数残っている、ウズベキスタン共和国の城壁に囲まれた歴史的都市「ヒヴァ」に建つ宿泊施設を計画。宿泊施設に必要な機能や設備、寸法、さらに避難計画などの法規を検討します。また、地域の文化や景観を損なわないように配慮しつつ、現代的なデザインも踏まえて設計を行います。

前期は、集団行動のための空間構成を修得。安全性と快適性を考慮し、美しさにも配慮して設計する能力を養います。後期は、「まちづくり」へと視野を広げ、歴史と文化を生かしたまちの創生を課題に、活性化の核となる劇場空間や集合住宅、商業空間の設計に取り組みます。

In the first semester, students learn how to design spaces which are adapted to use by large number of people. Ability in designing structures which are secure and have the required amenities as well as being beautiful is cultivated. In the second semester, a theme of broader perspective ‘urban development’ is taken up. Students work on the designing of such facilities and spaces as the prospective core of the town’s activities like theaters, commercial facilities and housing complexes targeting at the revitalization of the town taking advantage of its historical and cultural background or asset.

建築設計演習IV 3年生後期 Third year students, the second semester Architectural Design Studio IV

「地域の歴史と文化を生かしたまちづくり」
‘Urban development respecting the history and culture of the community’

課題1 演劇や音楽を 楽しむ劇場空間

西宮神社に隣接した敷地で、周辺の街並みと一体的に小規模劇場を計画。音楽演奏と伝統的な演劇のための舞台と 300 席程度の観客席を想定し、楽屋や大道具搬入空間にも配慮して設計します。観客席の音響性能評価、可視曲線や法規に基づく座席配置、通路と出入口の計画、座席からの避難確認も行います。



劇場の音響計画を模型で検討 音響専門家の指導を受ける



ピッコロシアターを訪れ、ステージの説明を聞く



高松桜井高校出身 (香川県)

課題2 隣と親しくなる中層の集合住宅



各住戸の日当たりを模型を使って検討



大阪国際大和田高校出身 (大阪府)

地域コミュニティのあり方や既存の街並みとの調和を考慮した、地域定住者のための居住空間を計画。町に賑わいを創出する住宅とともに、親子のための遊び場、太陽の光が射し込み風の通る中庭などを総合的に計画。水辺などの自然環境や歴史的環境も活用し、安全で、楽しいコミュニティを育む集合住宅を設計します。

課題3 膜屋根を架けた駅舎

既存の駅舎を建て替え、大規模な群集をより安全かつ快適に誘導することができる駅舎を計画します。駅舎空間は、不特定多数の人々が利用するために、誰にとってもわかりやすく、その地域の顔となるようなデザインが重要です。テント膜構造の大屋根を計画し、近隣にあるスタジアムの玄関口にふさわしい非日常性を演出します。

★国際建築ワークショップ (Inter Cultural Studies of Architecture (ICSA) in Japan) の一環として、2009 年よりトルコのバフチェシル大学からの留学生も一緒に学んでいます。



駅のホームを見学し、架線とその支柱、照明、配線、設備、サインなどを調査



引張り力、圧縮力の流れを感じ、模型制作により力学的感覚を養う



膜に張力をかけHPシェルを体感



明石城西高校出身 (兵庫県)

課題3 歩いて楽しい 都市空間

ヨットやカヌーなどが行き交う西宮浜の海沿いの一面を敷地として、住宅と商業施設を中心とした都市空間の創造をテーマに、設計の課題に取り組みます。敷地調査をもとに、建物単体の美しさだけでなく、さまざまな建築が互いに競演する街並みの美しさを考えます。各々の建築に異なる個性をもたせることで、地域住民だけでなく、ここを訪れる人々にとっても、より魅力的な歩いて楽しい都市空間を計画します。



マリナーの事例調査



武庫川女子大学附属高校出身 (兵庫県)



加古川西高校出身 (兵庫県)



西大和学園高校出身 (奈良県)

※学生による作品写真と出身校を掲載。

真に人間的な建築空間の理想像を修得する。

Students acquire ideal image of truly human architectural space.

STEP4 ● 学部4年生 STEP4 Senior students

建築設計演習V 4年生前期 Senior students, the first semester Architectural Design Studio V

「真に人間的な水辺の建築空間と都市景観の創造」

‘Creation of waterside architectural space and shore urban landscape where a man can remain truly human’

都市のなかで「高齢者がいかに生きるか」を考え、豊かな水辺空間を持つ老人福祉施設を設計します。その空間は、高齢者を優しく包み込み、そのなかで四季のうつろいや時間の流れを肌で感じることが出来る日常的な空間である一方で、老いや死に直面した人間を支える超越的な空間でもあります。医療福祉活動に要求される多種多様な機能を持つ多数の空間を一つの建築として構成することも必要です。ヒューマンスケールやユニバーサルデザインにも配慮します。



敷地見学の様子



武庫川女子大学附属高校出身(兵庫県)



城南高校出身(徳島県)

課題1 老いが教えてくれる生きてきた空間



病室や手術室などを見学



堺東高校出身(大阪府)



豊岡高校出身(兵庫県)

課題2 病院

医療という高度な「技術」「知性」と、患者および治療者の「人間性」「感性」の統合した空間として小規模病院を設計します。医療活動を理解し、入院患者にとっては安心・快適で、治療者のホスピタリティが溢れ、病者を心身ともに優しく包み込む人間的な空間を統合して一つの建築として構成します。

課題3 水辺の楽園

豊かな自然環境が形成され人間が文明や文化を形成してきた水辺が、堤防で埋め尽くされ人から遠く切り離されてしまった現代の日本。本課題では、自然破壊や景観破壊の現状や水辺と都市の文化について学び、都市に生きる人間にとっての「水辺」の重要性を考え、豊かな水辺を再生し、水辺と密接に関わるまちをデザインします。美しい水辺のランドスケープを中心とした、住宅や商業施設や公共施設などの複合的な用途を含む中・高層建築の計画を通して、新たな水辺の文化を創造するサステナブルで魅力ある都市の将来像を提案します。

★国際建築ワークショップ「Inter Cultural Studies of Architecture (ICSA) in Japan」の一環として、2009年よりトルコのバフチェシル大学からの留学生も一緒に学んでいます。



講評会 トルコからの留学生の発表に対する講評



検討中のS=1:1000 模型の発表



泉陽高校出身(大阪府)



兵庫高校出身(兵庫県)

※学生による作品写真と出身校を掲載。

前期は、「真に人間的な水辺の建築空間と都市景観の創造」の修得をテーマに、後期の卒業研究や大学院修士課程において、より高度な設計課題や実務実習を行うために必要な企画・計画・設計能力を養います。後期は、各自で決めたテーマに基づき、複数の教員から指導を受けながら、卒業研究に取り組みます。

In the first semester, higher abilities in planning, programming and designing, which will be required in the later graduation thesis studies or the masters program, are cultivated under the theme of 'An ideal image of an architectural space where a man can remain truly human.' In the second semester students tackle the Diploma Studio of their own themes under the guidance of more than one instructor.

卒業研究(卒業設計・卒業論文) 4年生後期 Senior students, the second semester Diploma Studio in Bachelor

本学科では、各研究室に所属し、一人の教員のみ指導を受ける従来型の学習は行わず、グループ単位で複数の教員の指導を受けながら、卒業設計および卒業論文に取り組みます。まず、学生各自でテーマに基づいた調査・分析を実施。その結果をもとに空間構成と論的展開を進め、グループでの討議、教員の指導による検討・修正を重ねていきます。4年間の学習の集大成となる卒業研究発表会では、学外から多くの専門家を招き、学生全員がプレゼンテーションを行います。



卒業論文発表会 学生の発表



卒業設計発表会 学生のご家族も多数ご出席

百舌鳥古墳群世界文化遺産ミュージアム



泉陽高校出身(大阪府)

展開し、自然とつながる一折り紙から着想を得た躍動する建築



城南高校出身(徳島県)

塔がいざなう広場空間—移動することで変化する景観—



加古川東高校出身(兵庫県)

「わ」をつなぎ、物語をつむぐ〜多世帯が共生する地域交流の場〜



堺東高校出身(大阪府)

降り龍—天橋立芸術センター—



生野高校出身(大阪府)

都市の中の庭—高層建築に展開する立体式の庭園—



兵庫高校出身(兵庫県)

ハレの日の船出—縁を結ぶ建築—



武庫川女子大学附属高校出身(兵庫県)

■作品展・卒業設計展 Exhibition 2019 by the Students

2020年2月13日(水)～2月16日(日)の4日間、西宮市立市民ギャラリーにおいて、学生有志103名による約170作品を展示する作品展を開催しました。演習で制作した木工や陶芸などの造形作品をはじめ、地元西宮市に敷地を設定した駅や病院などの建築設計作品、卒業設計・修士設計作品、また大学院の授業で制作した日本建築学会主催のコンペ「建築文化週間学生グランプリ2019 銀茶会」の茶席で第2位の「優秀賞」を受賞した茶室「透綾(すきや)」の実物の展示も行いました。他にも演習風景のパネルや、来場された方に参加していただけるワークショップなども企画しました。



男女共学 大学院修士課程 / 男女共学・昼夜開講制 博士後期課程

Master's course, Graduate school

プロフェッショナルスクール形式の建築家教育。

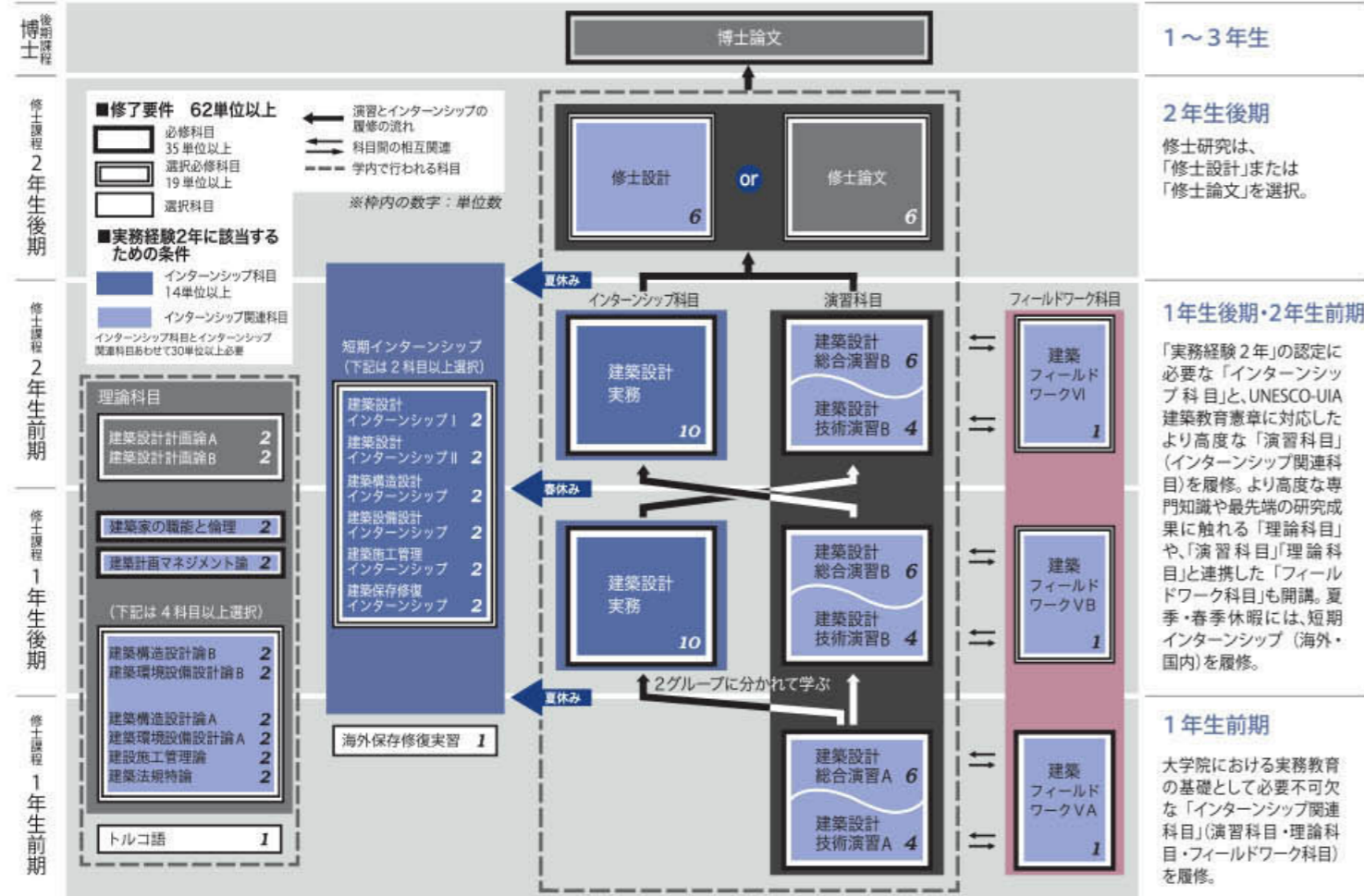
- 一級建築士取得に必要な「実務経験2年」に相当。
- JABEEの認定基準に適合する62単位の修了要件。
- 演習中心の欧米型スタジオ教育。

修士課程では、プロフェッショナルスクール形式の建築家教育で、幅広い知識と技術、そして建築家として欠かせない倫理観を備えた専門職人を目指します。修了要件が62単位（他大学大学院の2倍以上）に拡充された実践的なカリキュラムは、一級建築士の資格取得に必要な「実務経験2年」を充足。また、学士課程4年間と大学院修士課程2年間を含めた学士修士課程6年間(建築系学士修士課程 建築設計・計画系分野)に対するJABEE認定により、UNESCO-UIA建築教育憲章に対応しています*。従来の研究中心型の大学院ではなく、学年全員が共通の課題に取り組む演習中心の欧米型スタジオ教育で、研究室の垣根なく指導を受けられます。



大学院 修士2年生のスタジオ

*本教育プログラムでは、本学科を卒業後、本研究科修士課程に入学し、修了した者のみをプログラムの修了生とします。他大学等を卒業後、本研究科修士課程に入学、修了した者は、プログラムの修了生とはなりません。



Alike their Western counterparts of architectonics major, students are given professional school type architectural education. The education avoids typical laboratory system by specialized field to which students are usually assigned on entering the school, but it centers on the Studio where all students tackle the common assignment under the guidance of instructors in various fields regardless of what laboratories they belong to.

「演習科目」「インターンシップ科目」「理論科目」「フィールドワーク科目」4つの『学び』が有機的に連携するカリキュラム。

建築設計総合演習、建築設計技術演習。二つの「演習科目」を連携して学びながら、「理論科目」で知識の幅を広げ、「フィールドワーク科目」で建築の実際を体感。「インターンシップ科目」の実務経験に生かすとともに、その成果をフィードバック。4つの『学び』が有機的に結び付いた学習で、実践力を磨きます。

Thorough and bold restructuring of the curriculum

The curriculum based on organically related "Theoretical", "Studio", "Field Work" and "Internship" subjects refines students' practical ability. Student gets on the way toward becoming a professional with broad-based knowledge, techniques and, an essential requirement, ethics, in the professional school type education.

演習科目

原寸大の空間構築を体験し、実践力を養う。

「建築設計総合演習」の課題の技術的問題(構造、環境、施工など)は、常に「建築設計技術演習」と関連付けて指導されます。両演習科目を国際的に通用する建築設計者を養成するために必要不可欠な基幹科目として位置付けています。専用パソコンと専用製図機などがあるスタジオで、実務経験豊富な専任教員と学外の設計者が、学生と一対一の対話型、少人数かつ実践的な教育を行います。以上の成果として、就職活動においても質の高い設計作品を多数提示可能になり、同時に、一級建築士受験に必要な設計製図の能力も養成されます。

建築設計総合演習 A・B 修士1・2年生

原寸大による空間構築を体験し、その原初的・身体的な体験をもとに実践的に建築空間を設計する能力を養います。また世界に視野を向け、様々な風土、文化との関わりという観点から建築空間を考察・設計し、地球的・国際的な視座を養います。各課題は、建築設計技術演習A・Bと連携して進められ、建築空間の構造や環境設備や施工方法を総合的に理解します。



建築設計技術演習 A・B 修士1・2年生

同時進行する建築設計総合演習A・Bの課題について、構造、環境・設備、施工など技術面の課題検討を行います。課題として与えられた建物の基本設計および詳細設計を行うために、構造、設備計画の策定とプロセスを学習するとともに、建物用途や規模、敷地条件などに対応して設定された技術課題に取り組みます。豊富な技術経験を有する専任教員と学外の専門技術者が参画し、幅広い視点からの指導を受けます。



インターンシップ科目

一級建築士の資格取得に必要な「実務経験2年」に相当。

建築士法において、修士課程2年間の建築教育は、実務経験2年、1年、認定なしの3段階で認められています。本専攻では、「インターンシップ科目」を大幅に強化することで、「2年間の実務経験」に該当すると認定され、修了生全員が一級建築士の資格取得に必要な実務要件を満たします。また、学内に開設されている一級建築士事務所「武庫川女子大学 建築・都市デザインスタジオ」で実務訓練に取り組むことができます。

建築設計実務 修士1・2年生

(学内インターンシップ約4カ月)
 豊富な設計実務経験を有する教員や学外の設計事務所や建設会社の設計者や技術者などの指導のもと、学内外の実案件を対象に新築・改築・保存・修復などの実務訓練を行います。



短期インターンシップ 修士1・2年生

(海外・国内約2週間)
 国内外の優れた建築設計事務所、調査研究機関、専門的な技術を持つ工務店、実務教育プログラムを有する国内外の大学などで実務実習します。



理論科目

高度な専門知識と最先端技術に触れ次代の建築を考える。

専任教員の実務経験と研究活動に裏付けられた高度な専門知識や最先端技術に触れることにより、建築設計を理論的側面から深く分析し、具体的、総合的に設計する力を養います。

建築家の職能と倫理 修士1年生

建築家の職能や役割、建築士の資格制度、社会的諸問題に関する講義などを通じて、諸技術を統合する術、社会に対する責任や倫理を、芸術、歴史、文化のレベルまでを見据えて解説します。

フィールドワーク科目

見て、触れて、調査。建築の実際を体感する。

演習・理論科目と体系的に連携して実施。環境と人間の関係を認識しながら、多面的な考察を行い、多様な社会要求に対応した建築を実現する素養と能力を養います。

博士後期課程

男女共学・昼夜開講制

建築設計分野に関する高度で幅広い学識を有する研究者、および社会の指導者を育成するための研究指導を行います。また、研究の実践として建築設計の実務に参加し、設計能力を養うこともできます。設計実務を出発点とした新たな研究が展開することもあります。昼夜開講制なので、働きながら研究指導を受け、博士の学位を取得することも可能です。博士後期課程に在学して、所定の単位を修得し、博士論文の審査および最終試験に合格すると、博士(建築学)の学位を授与されます。



「伝統的町並み景観における構成要素の特徴」

伝建地区の町並みのうち、伝統的な町家が建ち並ぶ京都の祇園新橋地区と産寧坂地区を対象とする。それぞれの町並みを構成する屋根や格子、植栽などの構成要素に着目し、帰納論理プログラミングを用いて、町並み景観の固有の特徴を分析。



田中 佑奈 助教 (2018年度 修了)



「中央アジア古代仏教寺院の空間構成」

パキスタン北部から新疆ウイグルまでの広義の中央アジアにおける古代仏教寺院の研究。建築を構成する要素や形態に着目し、空間構成の特徴を類型化し、その変遷を地理的・歴史的要因を踏まえて分析。さらに、復元設計や文化財保存に関する知見に応用する。



中村 優花 助教 (2018年度 修了)

大学院
STEP5・6 ● 修士課程1・2年生
STEP5-6 Master's course, Graduate school

幅広い知識と技術、倫理観を備えた
専門職能人を目指す。

Aspiring to becoming a professional architect with
broad-based knowledge, technique and ethics

建築設計総合演習 A + 建築設計技術演習 A 修士課程 1 年生前期 Integrated Architectural Design Studio A + Engineering Design Studio A
「自然と光による空間構成・スペースフレームによる空間構成・膜による空間構成」
‘Spaces composed of membrane, 3-dimensional space frame system and Space constitution of the light and the darkness’

はじめに、原寸大のスタディモデルを共同で制作し、光環境実験室にある機材を使って光を操作することにより、光が持つ、人間の心に働きかける大きな力を実験的に体験します。その体験を踏まえた上で、複数の素材を組み合わせた建築空間の提案を各自が行い（自然素材を多く取り入れることが望ましい）、光によってさまざまなモノの特徴が立ち現れる空間構成の可能性を探究します。

課題 1
自然と光と空間



大阪教育大学附属高校天王寺校舎出身（大阪府）



キャンパス内の広場においてスペースフレームによる原寸大の空間構築体験



池田高校出身（大阪府）

課題 2
スペースフレームによる
曲面の建築

建築スタジオ北側の芝生広場に、スペースフレームによる曲面を用いた建築を設計します。はじめにスペースフレームによる原寸大のモックアップの組立て体験を行います。その体験をもとに、各自の設計案を作成します。スタジオの過程においてコンピューターを併用し、美しい曲面形状を探索するとともに構造解析も行い、それを実現可能な材料や構造を提案します。



スタディモデルの組立の様子



姫路東高校出身（大阪府）



池田高校出身（大阪府）

課題 3
膜構造による空間構成

膜構造を用いて、海辺にレストラン、マリンスポーツクラブハウス、親水公園を計画します。各自の設計に先立ち、1/3 スケールのモックアップの共同制作を行い、膜構造の力学的な性質や施工方法などを実地に学びます。3次元モデリングソフトを駆使して、シャボン膜のような、物理法則に基づき生じる効率的で美しい曲面による形態の可能性を探求します。それを建築物として具現化するための手法を構造、施工、環境の各観点から詳細に検討します。



寝屋川高校出身（大阪府）



膜構造のモックアップの共同作業



須磨東高校出身（兵庫県）



CGによる膜形状の検討

※学生による作品写真と出身校を掲載。

修士課程 1 年生前期は、原寸大の空間構築体験に基づいて実物のモノの世界から設計する能力を養います。
修士課程 1 年生後期・2 年生前期は、2 グループに分かれて建築設計総合演習 + 建築設計技術演習と建築設計実務に取り組み、高度知的職能人としての実践力を養います。

In first semester, the first year students of the master's course develop their capacities for designing spaces with concrete building materials by composing full scale structures. In the next two semesters, they work on "Integrated Architectural Design Studio + Engineering Design Studio" and "Practice in Architectural Design" in two respective groups to nurture the internationally viable view and practical capability. In the last semester, they grapple with master's thesis or diploma studio.

建築設計総合演習 B + 建築設計技術演習 B 修士課程 1 年生後期・2 年生前期 Integrated Architectural Design Studio B + Engineering Design Studio B
「歴史的遺跡の韜堂・原寸大の建築空間構築」
‘Protective shelter for historic remains, Production of the Full-Scale Space’

パレスチナにある初期イスラム建築ヒシャム宮殿 <Hisham's Palace> の遺構を風雨などの自然環境から保護し、その保存・展示・見学に寄与するための覆屋を企画・設計します。ヒシャム宮殿の浴室の床には中東最大といわれる色鮮やかなモザイク装飾が残されており、その保護と同時に見学施設の整備も緊急の課題となっています。本課題を通し、世界に目を向け「文化的景観」について深く理解することを目指します。

課題 1
歴史的遺跡の韜堂



四天王寺高校出身（大阪府）



豊中高校出身（大阪府）



MDF とポリカーボネイト板を使用した折りたためる茶室



竹のシェル構造による座れる構築物

課題 2
原寸大の建築空間構築

全員の共同作業により、より高度な原寸大の空間を制作します。材料と向き合いながら、デザインや施工方法などについて各自が積極的に提案を行うとともに、全員で協力して案を収斂させ、一つの作品を制作します。また作業に必要な材料などを積算するとともに、施工図や工程表などを作成し、建築空間を構築するために必要な一連の工程を体験します。

修士設計 または 修士論文 修士課程 2 年生後期
Master's Thesis or Diploma Studio

修士 2 年生後期には、学部および修士課程の 5 年半で修得した「真」「善」「美」の知識やそれらの統合の集大成として修士設計または修士論文に取り組みます。修士設計では、各自がテーマを設定し、それに基づき空間構成として総合化し、その成果を実現性のある建築設計にまとめてプレゼンテーションする能力を身に付けます。修士論文では、各自がテーマを設定し、それに基づき論理的展開を進め、その成果を学術論文にまとめてプレゼンテーションする能力を身に付けます。これらにより修士課程修了後、建築家として、あるいは専門家、研究者として、社会で自律的に行動し、活躍する上で必要な高度知的専門職能を確立することを目指します。



修士設計・修士論文発表会 修士論文の発表



出雲高校出身（島根県）



天王寺高校出身（大阪府）



修士設計・修士論文発表会 修士設計の発表

「実務経験2年」に対応するインターンシップ科目

Internship program to provide an equivalent of required "two years' practical experience"

「建築設計実務」、各種「短期インターンシップ」により、
学内の一級建築士事務所「武庫川女子大学 建築・都市デザインスタジオ」をはじめ、
国内外の設計事務所や建設現場での設計・工事監理・施工管理・歴史的建造物の保存修復などの実務に参加します。
これらを通じて、実務に必要な知識・技術・態度などを学び、実践力を養います。

While studying in many programs such as "Practice in Architectural Design" and various "Short-term Internship", students undergo practical training in designing, administration, execution management, or recovery protection of historical architecture, at the architectural studio on campus (Architecture and Urban Design Studio, Mukogawa Women's University) or at other domestic and overseas studios or construction sites. Student gets on the way toward becoming a professional with broad-based knowledge, techniques and ethics through these programs.

一級建築士事務所「武庫川女子大学 建築・都市デザインスタジオ」における実務演習

Practical training in "Architecture and Urban Design Studio, Mukogawa Women's University", a first class authorized architect office

実際のプロジェクトに参画

建築設計実務 修士課程 1年生後期・2年生前期

Practice in Architectural Design

建築設計実務では、武庫川女子大学 建築・都市デザインスタジオ（一級建築士事務所）を拠点として学内外の実際のプロジェクトに参画し、
新築・改築・保存・修復などの実務訓練を行っています。2018年度には、建築学部の新校舎・設計プロジェクトがスタート。個性ある2
つの建物の基本設計を行い、2019年度には実施設計を行いました。教員の指導のもと、計画案やCGパース、模型などを作成するだけでなく、
建設現場での施工方法についても検討を行い、設計図を作成しました。また2017年度には、阪神電気鉄道株式会社の方のご協力のもと、「阪
神電車鳴尾（武庫川女子大前）駅」の自由通路に「鳴尾の一本松」を題材にしたモザイクタイル画を製作、地域のシンボルとなる空間を
提案しました。その他、大学対抗建築コンペ「エネマネハウス2017」に参加し、伝統的な住環境技術の建具替えを現代的にアレンジした「キ
セカエハウス」を提案。大阪・うめきたサザンパークにゼロ・エネルギーを実現したモデル住宅を建築し、一般公開しました。



鉄道会社の方との打合せに参加



シェル構造による屋根の解説



縮尺1/10模型を用いて施工方法の説明



原寸模型によるプラットフォームの椅子の検討



屋根材の表面温度測定



原寸図によるスケール感の確認

短期インターンシップ 修士1・2年生 夏季・春季 休暇

Short-term Internship Spring/summer vacation, the 1st/2nd year, Master's course

夏季または春季休暇の2週間、豊富な実務実績を有する、国内外の建築設計事務所、
建設会社、調査研究機関、専門的な技術を持つ工務店、実務教育プログラムを有する
国外の大学などにご協力いただき、建築設計、構造設計、設備設計、工事監理、保存
修復などの実務訓練を行います。



一級建築士事務所

武庫川女子大学 建築・都市デザインスタジオ

2010年2月に、学内に一級建築士事務所「武庫川女子大学
建築・都市デザインスタジオ」が開設され、実務訓練の環
境が一層充実しました。建築設計実務では、ここを拠点と
して学内外の実際のプロジェクトに参画し、新築・改築・
保存・修復などの実務訓練を行っています。

阪神電車 鳴尾（武庫川女子大前）駅

兵庫県の都市計画事業である「阪神本線連続立体交差事業（鳴尾工区）」により、2008
年から武庫川女子大学の最寄り駅である阪神電車 鳴尾駅の高架工事が着手され、2017
年3月に上りホーム（大阪梅田方面行き）が完成しました。



「鳴尾の一本松」のモザイクタイル画制作



自由通路の柱のモザイクタイル画



神戸方面側のプラットフォーム



屋根に合わせて曲面の手すりをデザイン



透明感のある全面ガラスの待合室



鉄道会社や施工会社の方との打合せ

景観建築学科・新校舎

景観建築学科の2つの校舎は、建築学科の校舎である甲子園会館と建築スタジオとの
調和を図りながら、設計作業が進められています。模型やCGパースを使って、建物の
デザインだけでなく、構造や外構計画の検討も行いました。



意匠図や施工図を確認し、1/30模型を制作しながら外構計画も含めた設計・検討を行う



新校舎・東棟 国登録有形文化財「甲子園会館」のデザインを継承



新校舎・西棟 プレキャストコンクリートの新たな可能性を追求

キセカエハウス / エネマネハウス2017

大学と民間企業等の連携により、先進的な技術や新たな住まい方を提案するモデル住宅
を実際に建築し、住宅の環境・エネルギー性能の測定・実証や、展示を通じた普及啓発
を行うプロジェクトです。本専攻の提案は、優秀賞・ライフデザイン賞を受賞しました。



トップライトから日射エネルギーを取り込む「エン（縁）」



内覧会でのプレゼンテーション



ZEH「キセカエハウス」を一般公開（2017年12月2～17日・大阪市うめきたサザンパーク）

海外実習 / 国際会議

International Exchange / International conference

世界の多様な生活や文化などに深い洞察のある人格を養い、グローバルで国際的な活躍ができる建築家を育成します。2008年12月に締結したトルコ・バフチェシル大学との間の一般交流協定に基づき、大学院修士課程の学生がトルコでの保存修復関連の実務実習を行います。また、本専攻では、国際会議を開催するなど、海外からの留学生や研究者を受け入れています。

At our architectural department, we educate future architects who can be active on the world stage with great insight of various life and cultures of the world. In line with this, students in our master's course visit Bahçeschir University in Turkey based on the general exchange agreement. The students engage in practical training of recovery protection in the university's program. We also hold the international conference, and accept students and researchers from the foreign countries.

トルコにおける保存修復関連の実務実習 ICSA in Istanbul

Inter Cultural Studies of Architecture in Istanbul

2019年10月27日(日)～11月9日(土)の14日間、大学院建築学専攻修士課程2年生24名がトルコ・バフチェシル大学を訪れ、保存修復関連の実務実習「ICSA in Istanbul」を行いました。オスマン帝国時代の宮殿の保存修復という国家プロジェクトを手掛ける宮殿の工房群、モスクなどを鮮やかに彩るイズニックタイルの制作工房、イスタンブール市の保存修復組織 KUDEB の工房等を訪問し、保存修復関連の実習を行いました。またイスタンブール歴史地区、古都エディルネやブルサなども訪れ、最終日にはバフチェシル大学にて、学生が現地で描いたスケッチを展示しました。



イズニックタイルの制作工房で絵付けを体験



ドルマバフチェ宮殿の修復現場を見学



エディルネのセリミア・ジャーミイをスケッチ



スルタンアフメットジャーミイを見学



アヤ・ソフィアを見学



KUDEBの工房を見学



ブルサ・ジュマルルクスクを見学



バフチェシル大学でスケッチ展を開催

iaSU 国際会議

Archi-Cultural Translations through the Silk Road

- 第1回 iaSU 国際会議「シルクロードを通して見た建築と文化」がトルコのバフチェシル大学で、2011年3月16日～18日に開催されました。
- 第2回 (2012年7月14日～16日) は武庫川女子大学の上甲子園キャンパスで開催されました。
- 第3回 (2015年3月25日～27日) はバフチェシル大学で開催され、本学もテレビ会議システムを使って、基調講演や研究発表に参加しました。
- 第4回 (2016年7月16日～18日) は再び武庫川女子大学の上甲子園キャンパスで開催されました。日本文化を紹介する奈良ツアーも実施しました。
- 第5回 (2019年6月24日～26日) はモンゴル科学技術大学(モンゴル・ウランバートル)で開催されました。今回は初めて日本とトルコ以外の国での開催となり、「シルクロード」地域諸国(日本含む)において建築、都市、ランドスケープ、環境芸術などの分野の研究に取り組む研究者、設計者、デザイナー、技術者など多様な参加者による発表や講演が行われました。本学学生も5名、研究発表を英語で行いました。



第3回 iaSU 国際会議(日本側の様子)



トルコでの基調講演を中継



研究発表(日本側)



第4回 iaSU 国際会議



基調講演



研究発表



奈良ツアー



第5回 iaSU 国際会議



本学学生の研究発表



モンゴル科学技術大学の学生と交流



閉会式

▶ iaSU (International Association of SILKROAD UNIVERSITIES) iaSU とは、シルクロード沿いの諸地域にある大学の交流を活性化することを目的としてシルクロードの両端に位置するバフチェシル大学と本学が中心になって組織した大学連合のことです。

Pick Up Field Work

フィールドワーク

—学部・大学院—

五感を研ぎ澄まし、建築の実際に学ぶ。

Sharpen the five senses to learn from the real architectural situation

学部1年生から大学院修士課程2年生まで、土曜日はフィールドワークに出かけます。歴史的建造物や最新技術を駆使した現代建築の見学など、現地での調査を通じて講義や演習で得た知識と技術を具体的に理解します。

Saturdays are fieldwork days for students from undergraduates to the second year in master's course. The objects of fieldwork include field trips to historical architectures, or visit to buildings with leading-edge techniques as well as the research in those sites. It helps students concretely understand the knowledge they have obtained in the lectures and Design Studio.

■ 学部1年生 建築フィールドワークI



愛知・帝国ホテル 中央玄関(博物館明治村)
【関連授業】現代建築論



京都・慈照寺 東求堂
【関連授業】日本建築史



兵庫・甲山
【関連授業】空間表現演習II



三重・伊勢神宮
【関連授業】空間表現演習II

■ 学部3年生 建築フィールドワークIII



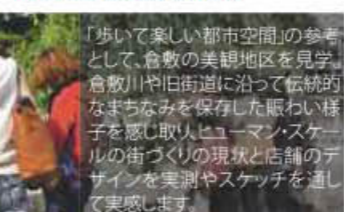
兵庫・TOTOシーウィンド淡路
【関連授業】建築設計演習III



兵庫・震災復興まちづくり
【関連授業】建築設計計画IV



岡山・倉敷美観地区
【関連授業】建築設計演習IV



広島・厳島神社
【関連授業】建築設計演習V

■ 修士課程1年生 建築フィールドワークV



京都・南禅寺
【関連授業】建築設計総合演習A



スペースフレーム組立体験
【関連授業】建築設計総合演習A



大阪信愛女学院 聖堂
【関連授業】建築設計総合演習A



阪神電車 鳴尾駅 新築工事現場
【関連授業】建築設計実務

■ 学部2年生 建築フィールドワークII



大阪・大阪木材仲買会館
【関連授業】建築設計演習I



福井・草の実保育園
【関連授業】建築設計演習II



照明計画
【関連授業】建築環境工学I



福井・草の実保育園
【関連授業】建築設計演習II

■ 学部4年生 建築フィールドワークIV



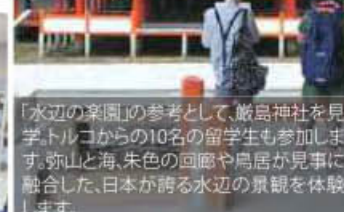
兵庫・西宮市立中央病院
【関連授業】建築設計演習V



水辺の楽園の参考として、厳島神社を見学。トルコからの10名の留学生も参加します。弥山と海、朱色の回廊や鳥居が見事に融合した、日本が誇る水辺の景観を体験します。



オフィスビルの設備システム
【関連授業】建築設備II



奈良・平城宮跡資料館 遺構展示館
【関連授業】建築設計総合演習B

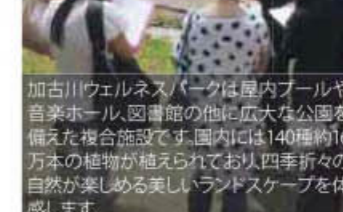
■ 修士課程2年生 建築フィールドワークVI



加古川ウェルネスパークは屋内プールや音楽ホール、図書館の他に広大な公園を備えた複合施設です。園内には140種約16万本の植物が植えられており、四季折々の自然が楽しめる美しいランドスケープを体験します。



大スパン架構
【関連授業】建築設計技術演習B



兵庫・加古川ウェルネスパーク
【関連授業】建築設計総合演習B



大スパン架構
【関連授業】建築設計技術演習B

実績、知識、情熱、ともに一流の指導陣。 学生が参加できる研究活動も充実。

Top-rated teaching staff with good actual achievement, knowledge and enthusiasm
Well-developed research programs for students to take part in

設計活動でも豊富な実績をもつ専任教員、各分野の第一線で活躍する非常勤講師が、高度で実践的な教育を行います。
専任教員が従事するさまざまな研究には、学生も参加することができます。

専任教員 講義や演習、自らの研究活動により、意欲を引き出し、能力を開花させる。

岡崎 甚幸 教授
建築設計計画、建築設計実務、建築設計総合演習ほか
博士(工学)。広島大学附属福山高校、京都大学工学部建築学科卒業。ワシントン大学建築学部大学院建築都市デザインコース修了。福井大学教授、京都大学教授を経て、京都大学名誉教授。専門は建築設計、建築計画学。「サンドーム福井」(日本建築学会賞受賞)をはじめ作品多数。「群集歩行のシミュレーションモデル」「居住空間構成法」など研究論文多数。京都の都市景観の再生特別調査委員会委員長ほか。

柳沢 和彦 教授
建築設計演習、建築設計計画、空間表現演習ほか
博士(工学)。福井県立武生高校、京都大学理学部卒業、同大学工学部建築学第二学科卒業、同大学院工学研究科修士課程修了。専門は建築計画学、建築設計等。空間図式の発達の、病的、比較文化的研究、建築プログラミングに関する計画学的研究、それらの成果を適用した設計実務に従事。

松下 聡 教授
建築設計演習、建築設計計画、建築英語ほか
博士(工学)。大阪府立住吉高校、京都大学工学部建築学科卒業、同大学院修士課程修了、ライス大学建築学部修了。専門は建築計画学、建築設計。金沢工業大学、福井大学に勤務。福井大学校舎、附属幼稚園、福井県の公共建築などの設計に従事。建築空間における人間行動、空間の有効利用などを研究。

大井 史江 准教授
建築設計演習、建築設計計画、建築計画論ほか
長野県野沢北高校、福井大学工学部建築学科卒業、同大学院工学研究科修士課程修了。黒川紀章建築都市設計事務所等多様な建物の企画から基本設計・実施設計・現場監理に従事。「外務省在ギリシャ日本国大使館」「福井県立恐竜博物館」など作品多数。

猪股 圭佑 准教授
建築設計実務、世界建築史、近代建築史ほか
宮城県仙台第二高校、京都大学工学部建築学科卒業、同大学院工学研究科修士課程修了。専門は建築設計、建築計画学。株式会社東畑建築事務所にて「東京湾警察署」「横浜市庁舎耐震補強」「東京建物台ビル」「税務大学校大阪研修所」などの設計を担当。「ビザンティン聖堂におけるキリスト教絵画によって構成された建築空間」などを研究。

天島 秀秋 准教授
現代建築論、建築設計演習、建築設計総合演習ほか
広島県立海田高等学校卒業、京都大学工学部建築学科卒業、同大学院工学研究科修士課程修了。専門は建築計画学、建築設計。本学専攻の学舎である「武庫川女子大学 甲子園会館」の改修設計を担当。「風水思想における圍繞の空間構造」「3次元GISを用いた終末期古墳の立地原則の解明」など、人間と風景の理想像に関する研究に従事。

宮野 順子 准教授
建築設計演習、建築一般構造Ⅰほか
博士(工学)。大阪府立三国丘高校卒業、神戸大学工学部建築学科卒業、同大学院自然科学研究科建築学専攻修士課程(前期)修了、京都大学大学院都市環境工学専攻修士課程(後期)修了。専門は建築設計、建築設計学。遠藤剛生建築設計事務所にて、主に集合住宅を中心とした建物の企画、基本設計・実施設計、現場監理の経験を持つ。

中村 優花 助教
空間表現演習、建築設計演習、建築設計総合演習ほか
博士(建築学)。神戸龍谷高等学校卒業、武庫川女子大学建築学科(3期生)卒業、同大学院建築学専攻修士課程、同博士後期課程修了。専門は建築計画学、建築意匠・歴史。博士學位論文は「中央アジアにおける仏教寺院建築の空間構成の類型とその変容」。武庫川女子大学 建築・都市デザインスタジオで「阪神鳴尾駅」の設計に従事。

田崎 祐生 教授
世界建築史、建築設計演習、建築設計総合演習ほか
博士(工学)。大阪府立天王寺高校、京都大学工学部建築学科卒業、同大学院工学研究科修士課程、同博士後期課程修了。専門は建築論、建築設計。「住まうこと」を手がかりに、東アフリカの農耕民の伝統的住居や精神医療施設などを事例として、建築論、場所論を展開。「舞鶴市斎場」「光愛会光愛病院」など作品多数。

鳥巢 茂樹 教授
建築設計技術演習、建築一般構造Ⅱ、建築構造設計論ほか
構造設計一級建築士。灘高校、京都大学工学部建築学科卒業、同大学院工学研究科修士課程修了。専門は建築構造設計学。日建設計、日建設計シビルにて重工業や先端技術の施設、特殊建造物などの設計および構造設計あるいは耐震診断業務に一貫して従事。近年は地震応答解析における離散化(デジタル解析)の問題についても研究。

鈴木 利友 教授
空間表現演習、図学・情報基礎演習、建築設計計画ほか
博士(工学)。愛知県立岡崎高校、京都大学工学部建築学第二学科卒業、同大学院工学研究科修士課程、同博士後期課程修了。アイカメラや仮想空間を用いて、空間と人間行動との関係を解明する実験的研究、傾斜地集落や町家などの調査・研究に従事。最近では、美しいとされる曲線の定式化とその建築設計への応用の研究も行っている。

宇野 朋子 准教授
建築環境工学、建築設計演習、建築環境設備設計論ほか
博士(工学)。大阪府立茨木高校、京都工芸繊維大学工学部卒業、京都大学大学院工学研究科修士課程、同博士後期課程修了。東京文化財研究所、電力中央研究所を経て、現職。専門は建築環境工学。おもな研究は、東南アジアの住宅の温熱環境と環境共生技術に関する研究、文化遺産の保存に関する研究など。

田中 明 准教授
日本建築史、建築設計演習、図学・情報基礎演習ほか
博士(工学)。石川県立金沢泉丘高校卒業、芝浦工業大学工学部建築工学科卒業、同大学院工学研究科修士課程、京都大学大学院工学研究科修士後期課程修了。専門は建築設計、建築論。「壺元院の修学院御幸と後水尾院追想の場所」「離宮において景を「見る」こと」の諸相について」などを研究。

田川 浩之 准教授
建築構造力学、建築材料実験、建築設計総合演習ほか
博士(Ph.D.)。灘高校卒業、京都大学工学部建築学科卒業、ワシントン大学工学部土木環境学科修士課程、同博士課程修了。専門は建築構造工学。東京工業大学、(一財)日本建築総合試験所、(独)防災科学技術研究所に勤務。「動的安定性の観点からみた心棒効果」「日本式、欧米式ラーメン構造の耐震信頼性評価」などを研究。

山口 彩 講師
建築設計実務、建築設計演習、建築設計論ほか
博士(建築学)。京都文教高校、武庫川女子大学建築学科(1期生)卒業、同大学院建築学専攻修士課程、同博士後期課程修了。専門は建築設計、建築計画学。「阪神鳴尾駅」や「朝日エディック株式会社大阪工場 庭園」、「バーミヤン東大仏再建築」などの設計プロジェクトに従事。イスラームの聖典であるクルアーンに記される自然観について研究。

2020年度 非常勤講師 学外のスペシャリストが、高度な専門技術を惜しみなく伝える。

※五十音順に掲載

浅田 晶久 講師 浅田製瓦工場 代表。京都で2軒のみ残る伝統的手法を継承する瓦葺元の三丁目。	小宮山 研二 講師 (株)竹中工務店 スマートコミュニティ推進部長、大阪本店設計部設備部門部長。	松浦 範明 講師 (株)大林組建築事業部品質管理担当部長、建築生産にかかわる品質管理の最先端の実務者。
麻生 秀穂 講師 芸術家。東京芸術大学 名誉教授、沼津市「庄司美術館」館長。	酒井 利行 講師 元(株)竹中工務店 設計部 プリンシパルアーキテクト。	松本 浩作 講師 照明デザイナー。(有)スタイルマック代表取締役、公共建築などの照明計画を手がける。
池澤 廣和 講師 元(株)日建設計 総合研究所 フェロー。設備設計分野における最先端の技術者。	阪倉 嘉一 講師 前(株)竹中工務店 技術担当顧問、元・大阪府建築部部長、都市計画行政の第一人者。	三司 宗一郎 講師 建築家。アトリエベー 社長。元(株)昭和設計 社長。名建築の設計を手がける。
石岡 雅夫 講師 元(株)環境整備センター 所長。まちづくりに従事するコンサルタント。	笹岡 隆甫 講師 筆道「末生流笹岡」家元。舞台芸術としてのいけばなの可能性を追求している。	南野 馨 講師 陶芸家。大阪芸術大学 非常勤講師。2002年 秀明文化基金賞受賞。
石田 潤一郎 講師 京都工芸繊維大学 名誉教授。日本の近代建築研究の第一人者。	鈴木 悦甫 講師 京都大学 名誉教授。京都芸術工芸大学 教授。集合住宅研究の第一人者。	宮下 真尚 講師 (株)遠藤照明 照明計画研究所 担当部長。
今松 泰 講師 トルコ語を担当。京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 特任准教授。	高田 光雄 講師 京都大学 名誉教授。京都芸術工芸大学 教授。集合住宅研究の第一人者。	宗田 好史 講師 京都府立大学 副学長・教授。欧米の歴史都市の保存・再生、京都の再生手法を研究。
植田 和樹 講師 宮大工晴武堂(有)代表取締役。伝統建築等の大工工事に長年従事。	高橋 大次 講師 京都大学 名誉教授。建築音響研究の第一人者。	室崎 益輝 講師 神戸大学 名誉教授。兵庫県立大学 防災教育センター長。建築・都市防災研究の第一人者。
上田 真也 講師 (株)竹中工務店 大阪本店 設計部 設備1グループ長。	垂水 英司 講師 TAR工作室 代表。元・兵庫県建築士会 会長、元・神戸市 住宅局長。	森 和正 講師 画家。名古屋造形芸術大学、岐阜大学、愛知県立芸術大学 非常勤講師を歴任。
上田 信也 講師 建築家。Soriano, SOM、(株)日建設計にて、建築・都市デザインに携わる。	千葉 和成 講師 千葉建築事務所 所長。大林組にて京都駅ビルプロジェクトなどに従事。木造設計の実務経験も豊富。	吉田 博宣 講師 京都大学 名誉教授。元・日本大学生物資源科学部 教授。造園学の第一人者。
鶴飼 邦夫 講師 (株)構造地盤研究所 代表取締役。元(株)日建設計 大阪本社 理事 構造統括部長。	寺本 健三 講師 元(株)京都市景観まちづくりセンター 次長。前・京都市 都市計画局 都市景観課 課長。	芳谷 勝彌 講師 元(株)日建設計 勤務。建築バース作成の第一人者。
宇澤 善一郎 講師 建築家。一級建築士事務所 アトリエ・ユウ代表。	中嶋 節子 講師 京都大学大学院 人間・環境学研究所 教授。都市史、建築史、および歴史的環境保全の研究に従事。	芳村 恵司 講師 元(株)竹中工務店 事務所 副部長。(一社)関西 ESCO 協会 副会長を歴任。
神楽 昭雄 講師 神楽昭雄建築研究室 主宰。多数の優れた木造住宅の設計経験があり、受賞、雑誌掲載多数。	中田 勝行 講師 オフィスひろぎ 代表。測量技術者。元(株)かんこう本社 参与。神戸大学、立命館大学 非常勤講師。	渡辺 眞次 講師 (株)竹中工務店 大阪本店設計部 監理部門。多くの建設現場の作業所長を務めた最先端の実務者。
苅谷 勇雅 講師 文化庁文化財調査官等を歴任し、文化財保護行政に従事。前・小山工業高等専門学校 校長。	福島 貞道 講師 景観・都市政策研究所、福島建築法令事務所 代表。元(財)京都市景観・まちづくりセンター 専務理事。	D.J.レナー 講師 前 神戸山手短期大学 教授。本学 文学部 英語文化学科 非常勤講師。
河又 洋介 講師 国立研究開発法人 防災科学技術研究所 研究員。	福田 哲也 講師 建築家。福田哲也建築設計事務所 代表。建築全般からインテリア、修復まで手がける。	J.E.パロウ 講師 前 大阪国際大学国際コミュニケーション学科 教授。
清澤 悟 講師 浄土真宗大谷派源得寺 住職。(株)文化財サービス取締役社長などを歴任。	古川 博司 講師 元(株)竹中工務店 大阪本店 プリンシパルアーキテクト。	K.A.ジャクソン 講師 関西医科大学 非常勤講師。
黒岩 絵里子 講師 組木工房・代表。組木細工の技法を取り入れ、幅広く木の製作活動を行う。	本城 邦彦 講師 元(株)竹中工務店 顧問。甲子園会館の復元。本学の数多くの学舎を手がける。	M.P.スイートマン 講師 城星学園中学校・高等学校 非常勤講師。

専任教員による研究活動

- 歴史都市における伝統的住環境技術と景観および文化の研究
- 京町家や都市景観の再生に関する実践的研究
- ファサードの立体的な構成に着目した伝統的な町並み景観の研究
- 世界遺産パームヤーンの遺跡の保存と再生
- 世界遺産ペトラの古代遺跡の保存と展示計画
- ヒシャムパレス遺跡保存と展示計画
- シルクロードにおける自然、建築、文化に関する研究
- 中央アジアにおける仏教遺跡の空間構成に関する研究
- 近代建築の保存と再生に関する研究
- 居住空間構成法と風景構成法にもとづく内的世界の研究
- 美しいとされる曲線の定式化と建築設計への応用
- 傾斜地における地形と建築群の視覚的共生に関する研究
- 3次元GISを用いた終末期古墳の景観の可視化と類型化による立地原則の解明
- 風水思想における圍繞空間と都市景観に関する研究
- ビザンティン聖堂におけるキリスト教絵画による空間構成の研究
- 日本、キリスト教、イスラム教における自然観と景観の研究
- フリーアドレス作業空間の有効利用に関する研究
- 建築空間における群集の避難行動と心理に関する研究
- 使われ方実態調査に基づく建築プログラミングに関する研究
- 医療施設の計画と空間構成についての研究
- 詩歌によむ近世日本建築の構成についての研究
- 住まいの空間にかかわる建築論の研究
- 柱立てと空間に関する研究
- 欧米型RC厚肉床構造の地震時応答シミュレーション
- 地震応答解析における時間・空間の離散化による問題点
- 住宅の省エネルギーにかかわる研究
- 高温多湿気候下における住宅の温熱環境に関する研究
- 高齢者の共同居住に適合した住宅の運営手法に関する研究

武庫川女子大学 トルコ文化研究センター Institute of Turkish Culture Studies

2009年7月に武庫川女子大学トルコ文化研究センターが甲子園会館に開設されたのに続き、2010年6月にはバフチェシル大学に日本文化研究センターが開設されました。両センターは連携し、日本とトルコの建築を中心とする生活、技術、文化等に関する研究を行い、シルクロード一帯の国々に共通な文化的基盤を解明していきます。2011年10月には本学トルコ文化研究センター内にシルクロード建築文化展示室・セラミック室が開設され、多くの来賓を招いて開所式を行いました。さらに、建築学部長でもある岡崎トルコ文化研究センター長がトルコのアンタリヤやカイセリで招待講演を行うなど国際交流を活発に行っています。研究成果および活動報告は英文の紀要「Intercultural Understanding」として出版し、世界に発信しています。



武庫川女子大学シルクロード建築文化展示室・セラミック室開所式



バフチェシル大学 日本文化研究センター開所式 カイセリの国際シンポジウム岡崎センター長招待講演



武庫川女子大学シルクロード建築文化展示室 セラミック室



武庫川女子大学シルクロード建築文化展示室 大工道具室



武庫川女子大学シルクロード建築文化展示室 生活道具室

世界へ、社会へ。 広がる“学びの場”

To the world and into the society

Extending 'learning opportunity'

■海外研修 Overseas study tour

アートとしての建築を、自分自身で体感する。

夏休みの2週間を利用して、海外研修を行います。2019年度はイタリアのヴェネツィア、ラヴェンナ、アッシジ、フィレンツェ、ローマ、ヴァチカンなどの歴史都市を巡りました。素晴らしい意匠や多彩な様式の建築をはじめとする芸術と向き合うことができます。日本建築史やフィールドワークの寺社見学など日本の伝統的な建築について学んだこと、世界建築史や近代建築史で学んだことについて理解を深めると同時に、自分の目で見て、風景や都市景観と一体になった建築をその場の空気とともに体感します。芸術の真髄に触れ、それぞれの作品が放つ美しさと存在感から受けた刺激は、その後の建築設計演習に生かされます。



■外国語教育 Foreign language education

国際社会で活躍できる人材を目指して。

国際的に活躍できる建築家となるため、外国語教育にも力を入れています。学部1・2年「建築英語Ⅰ～Ⅳ」(全8単位)は必修科目です。1学年を2クラスに分け、22人規模の少人数クラスで授業を行います。建築の専門用語も交えて英語を学び、海外研修に備えるとともに、語学力の向上を目指します。さらに英語学習への意欲や語学力の高い学生は、全学共通の特別コース(英語チャレンジコース)に参加可能。学部2～4年生の3年間でTOEIC800点以上を目指します。また、大学院修士課程1年には「トルコ語」も開講します。トルコでの海外実習に備えて、会話表現などの基礎を学びます。左下の写真はアメリカ人教員による建築英語、右下の写真はトルコ人留学生も参加するトルコ語の授業風景です。



■国際建築ワークショップ ICSA in Japan

Inter Cultural Studies of Architecture in Japan



毎年6月下旬から約40日間、トルコのバフチェシル大学の学部生10名を受け入れ、学部2～4年生と同じ課題に取り組む国際建築ワークショップ〈Inter Cultural Studies of Architecture (ICSA) in Japan〉を開催しています。学部2年生の課題では「学生会館」を設計(P19)。学部3年生の課題では「膜屋根を架けた駅舎」を設計(P21)。学部4年生の課題では西宮浜を敷地として「水辺の楽園」をテーマに都市空間をデザイン(P23)。その他、未生流笹岡家元 笹岡隆甫先生による「いけばな」など、学部1年生の演習にも参加。フィールドワークでは、伊根の舟屋群や厳島神社などを見学し、日本の都市や建築に対する理解を深めます。



■講演会 Lecture

第一人者の話を聞き、新しい世界をのぞく。

建築家、研究者といった各分野の第一人者を招き、建築と文化について講演会を行います。さまざまな専門家から直接話を聞くことで、建築を幅広い視点から理解します。講演会は一般公開し、多くの方に来場いただいています(写真右上)。東京では、日本工業倶楽部会館を会場とし(写真下)「わが国の近代建築の保存と再生」と「シルクロードの文化と建築」の講演会をシリーズで開催しています。また、大学予備校において岡崎学部長が建築家について講演会を行っています。



武庫川女子大学 建築学部

建築学科 / 景観建築学科

武庫川女子大学大学院 建築学研究科

建築学専攻 / 景観建築学専攻

〒663-8121 兵庫県西宮市戸崎町1-13 TEL/0798-67-4501

お問合せ先

■見学のお問合せ / 0798-67-4501

■入試に関するお問合せ

入試センター直選TEL / 0798-45-3500

レホンサービス / 0798-45-8888 (入試情報)

ホームページ日々更新中!

最新の授業風景やイベントなどを紹介しています。



武庫川 建築学部

検索

▶ <https://arch.mukogawa-u.ac.jp/>

見学はいつでもできます。出張講義も受付中!

受験生やその関係の方は事前に予約がなくても、キャンパスを見学していただけます。守衛室までお気軽にどうぞ。閉門時はインターホンで呼び出してください。
※ただし、職員在館時に限ります。
高校での出張講義も承ります。

アクセス 武庫川女子大学は、大阪と神戸のほぼ中間に位置しています。

上甲子園キャンパスは、JR神戸線「甲子園口」駅より徒歩約10分

●JR「大阪」駅 → JR「甲子園口」駅 (14分)

●JR「三ノ宮」駅 → JR「甲子園口」駅 (17分)(新快速で神戸駅前から直通に乗り換え)

